

国際学部国際観光学科 カリキュラムマップ

履修区分	科目区分	対象分野	1年次	2年次	3年次	4年次
必修	学科入門科目	学科共通	国際観光学入門／異文化理解入門			
	演習科目			基礎演習	専門演習1a・1b	専門演習2a・2b／卒業研究
全員履修	学部導入科目	学科共通	国際学への招待			
	学科導入科目		大阪観光学			
	演習科目		大学入門ゼミa・b	演習導入		
選択必修	専門基礎科目	学科共通	観光歴史学／観光経済学／観光地理学／観光経営学			
	専門基幹科目	観光文化		比較文化論／旅の文化史／観光人類学		
		観光計画		観光計画論／観光政策論／観光資源論		
		観光事業		観光マーケティング論／観光開発論／観光事業論		
選択必修	専門発展科目	観光文化		観光民俗学／レジャー文化論／観光とホスピタリティの心理学／観光と芸術／観光と宗教／観光資源解説方法論／世界遺産論／食文化論／文化財論		
		観光計画		エコツーリズム論／コミュニティツーリズム論／アーバンツーリズム論／地域データ分析 移動の社会学		
		観光事業		旅行ビジネス論／航空産業論／宿泊産業論／集客産業施設運営論／観光交通論／観光企業論／ホスピタリティ産業論／観光情報論／観光会計論		
		国際理解		グローバル・イシュー／現代アメリカ文化論／多文化社会論 アジアの地域と観光／ヨーロッパの地域と観光／アフリカの地域と観光／国際平和論／グローバル・ガバナンス論／アメリカの地域と観光／オセアニアの地域と観光／民間協力（NGO/NPO）論／国際協力論		
		特別講義		国際観光学特別講義1／国際観光学特別講義2／国際観光学特別講義3		
		実習講義		観光調査法 プロジェクト型国内実習a・b／プロジェクト型国際実習a・b		
選択必修	観光コミュニケーション科目	英語	基礎	英語圏留学入門		
				英語コミュニケーション1・2／英語アドバンスト・コミュニケーション1・2／メディア・イングリッシュ1・2		
			発展	メディア・イングリッシュ3・4		
				資格ビジネス1～4 advanced English Reading 3・4／Presenting in English 1・2／ホスピタリティ英語1・2／通訳入門／翻訳入門／Debate and Discussion／ドラマで学ぶ英語／Topic Studies／business English		
		中国語	基礎	中国語コミュニケーション1・2／台湾華語		
			発展	中国語検定講座a・b／ネットビジネス中国語		
				中国語コミュニケーション3／接客のための中国語／中国語で日本案内		
		応用	中国語コミュニケーション4／ポスト留学中国語			
		韓国語	基礎	韓国語コミュニケーション1・2／Kpopとドラマで学ぶ韓国語／韓国語実用会話1・2／トラベル韓国語		
			発展	韓国語コミュニケーション3・4／韓国語で日本案内／韓国語ビジネス1・2		
				韓国語検定講座a・b／ポスト留学韓国語		
		日本語 (※)	基礎	日本語読解1a・1b／日本語聴解発話1a・1b／日本語レポート1a・1b		
			発展	日本語読解2a・2b／日本語聴解発話2a・2b／日本語レポート2a・2b		
				応用	日本語演習a・b	
			総合日本語a・b／日本語レポート3a・3b／ビジネス日本語1a・1b			
	ビジネス日本語基礎a・b／ビジネス日本語2a・2b					
自由選択	国際教養科目	国際社会と規範	法学概論1・2			
			哲学概論a・b／倫理学概論a・b／国際社会と人間／国際政治経済論／宗教と社会			
		文化と交流	博物館概論／対人コミュニケーション心理学／文化地理学a・b／現代地理学a・b／日本地誌学a・b／日本史概論1／日本史概論2a・2b／西洋史概論a・b／文化交流史1～3／東洋史概論			
			世界地誌学a・b／日本文化史a・b／アジアの美術／ヨーロッパ芸術論			
ビジネスとキャリア	ミクロ経済学／マクロ経済学／国際経済学／消費者の心理／音楽産業論／現代企業事情／日本経済論1・2					

※ 日本語科目は留学生専用科目です。

[国際学部国際観光学科]授業科目の概要

※50音順

授業科目の名称	講義等の内容
アーバンツーリズム論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、都市観光について講義する。戦後の経済発展は、都市部に企業や人々を呼び込み、その受け皿となる都市整備が行政に求められてきた。地価の高騰や慢性的な交通渋滞など都市特有の負の諸問題を抱えつつも、次第に都市の内部に様々なネットワークが構築され、都市自体が文化の発信拠点としての魅力を高めていく。今や観光は都市にとって主要産業であり、如何に都市の魅力を内外に発信し、関係人口を増やすかは、行政の重要課題となっている。これらの事柄をふまえて、都市のブランド創造とその課題等について学び、都市観光の可能性について理解を深める。</p>
アジアの地域と観光	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、中国・韓国・スリランカにおける仏教・都城・対外関係に着目し、それらと深く関わる歴史遺産をおおむね国別、時代順に紹介しながら、その歴史的背景、文化的意義について講義する。授業の中心となるのは、東アジア・南アジアを中心とした広域的なアジア史の通史である。本授業を通じて、中国史・朝鮮史・スリランカ史を一体化させた広域的なアジア史を学ぶことで、高等学校世界史のうち、アジア史分野に関わるあらゆるテーマに対応できるよう、各回の個別テーマを設定し、多角的な視点から東アジア・南アジア世界の歴史を考察する。併せて、日本やヨーロッパも含めた世界史の中のアジア史を展望し、歴史学の立場から中国・韓国・スリランカ観光に有用な情報への理解を深める。</p>
アジアの美術	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、絵画・彫刻とも、まずは基礎知識と資料の見方を学び、それぞれの資料を全体だけではなく、細部に至るまで詳細に観察し、その特徴をできるだけ自分自身で把握するための講義を行う。その上で時代ごとに中国・朝鮮半島からの文化の伝播を考えながら、様式の変化を捉えるとともに、各資料が造られた時代及び思想史的背景を考察してゆく。なお、本科目では、絵画では、玉虫厨子・法隆寺金堂壁画(飛鳥時代・白鳳時代)、涅槃図・阿弥陀来迎図(平安・鎌倉時代)、曾我蕭白と伊藤若冲らの作品(江戸時代)を、仏像では、法隆寺金堂釈迦三尊像(飛鳥時代)、橘夫人念持仏など(白鳳時代)、薬師寺薬師三尊像と興福寺八部衆像(奈良時代)、神護寺薬師如来立像・新薬師寺薬師如来坐像・平等院鳳凰堂阿弥陀如来坐像(平安時代)、運慶・快慶の仏像(鎌倉時代)などを取り上げる。</p>
Advanced English Reading 3	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、難易度の高い英文読解に不可欠な語彙や文法に関する知識を身につけ、その内容をすばやく正確に理解するだけでなく、文体の多様性をふまえ、言葉の深淵を捉えた読解力を養成する。また読み終えた英文に対して、自分なりの考えを英語でまとめる、あるいは口頭で述べる能力の修得も目指す。テキストの各ユニットには、やや長めの英文が収められているが、各回の授業ごとに読み切る。またスキミングやスキヤニング等のリーディングスキルを紹介し、新出単語の発音練習を行ったのち、英文の理解度を問う問題に取り組み、ディクテーションと音読活動を導入することにより、総合的な英語力を修得する。</p>
Advanced English Reading 4	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、英文で書かれた内容を正確かつ迅速に理解するだけでなく、書き手の文体上の特色や、用語選択の意図を理解し、言葉の深淵を捉えた読解力を養成する。さらに、読み終えた英文に対して、300語程度の英文、または3分間程度の英語スピーチで、自身の見解を示す能力の伸張も目指す。毎回の授業では、英文を読み切ること前提に、理解が難しいと思われる自然科学系や社会科学系の語彙、また複雑な倒置・省略表現などの説明を行う。併せて修得したリーディングスキルを用いて、英文の理解度を問う問題に取り組み。またディクテーションや音読も行う。</p>
アフリカの地域と観光	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、これらの国々の観光地や文化などを題材としながら、アフリカについて学び、文化資源を多面的に活用する方法を考えるための講義を行う。各国の世界遺産、ダンス、音楽、自然、宗教などの観光資源を取り上げ、アフリカの歴史や社会状況との関連を考察することをとおして、今日のアフリカに対する理解を深める。特に講義担当者が調査研究を実施してきた、西アフリカのガーナとナイジェリア、東アフリカのエチオピア、タンザニア、ケニアを対象フィールドとする。講義では、観光をとおしてアフリカについて学ぶことを目標とし、アフリカの生活・文化・近年の変化などにかんする基礎知識を身につけた上で、アフリカへの理解を深め、そこから何を学ぶのかを考える。</p>
アメリカの地域と観光	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、アメリカの観光に関する教科書を用いて、国際観光学の一環としてアメリカの地域と観光について講義を行う。毎回の授業では広大なアメリカを地域ごとに分け、それぞれの地域的特色や観光などについて学んでいきます。授業では担当講師の実体験に基づくアメリカ紀行の話を変えながら、受講生と共に新たなアメリカの地域像や、アメリカにおけるツーリズムビジネスや旅行業務、アメリカの観光学について理解を深める。</p>
移動の社会学	<p>本科目では、人々が移動することを念頭に置いた社会学の分野で議論されてきた古典的なテキスト(ジョン・アーリ『モビリティーズ:移動の社会学』など)を用い、調査研究を踏まえて講義する。受講生は、教員が紹介する古典的なテキストの概要を理解し、自分自身で原典を読み、内容を理解した上で自分なりの考えを説明する批判精神を身につける。</p> <p>そして移動や行動にかかわる社会学およびその周辺領域で重要とされてきた諸テーマについて自分なりの説明ができるようになる。</p>
異文化理解入門	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、観光の現場で必要とする異文化理解の基礎的な考え方を紹介することに主眼を置いた講義を行う。外国人観光客が増加するなか、外国人に対応するスキルが観光の現場に求められている。観光客を受け入れる側(ホスト)と観光客(ゲスト)の間では、観光をめぐる考え方に相違がある。この授業では、まず、異文化と自文化と同じ部分(文化の普遍性)に注目して、相手の文化を理解する。その上で多様な考え方(文化の多様性)を尊重する方法を考える。また、遠い海の彼方の文化を知ることで、身近な社会の常識への理解を深める。</p>

授業科目の名称	講義等の内容
英語アドバンスト・コミュニケーション1	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、これまでの英語コースで学んだスキルを基に、総合的な英語コミュニケーション能力を向上させることを目標とする。TOEIC L&Rの教材を用いて、文法・リーディング・リスニングのスキルを強化すると共に、リスニングとリーディングのスキルを補うために、語彙学修も行う。スピーキングとリスニングには、適切な表現や練習問題が掲載された教材を使用して、スキルアップを図る。さらに、他国の伝統や文化に焦点を当てたトピックを取り入れることで、異文化への興味を育むことも目標の一つとする。TOEIC L&R450以上の英語力を身につけることを目指す。</p>
英語アドバンスト・コミュニケーション2	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、これまでの英語コースで学んだスキルを基に、総合的な英語コミュニケーション能力を向上させることを目標とする。TOEIC L&Rの教材を用いて、文法、リーディング、リスニングのスキルを強化すると共に、リスニングとリーディングのスキルを補うために、語彙学修も行う。スピーキングとリスニングには、適切な表現や練習問題が掲載された教材を使用して、スキルアップを図る。さらに、他国の伝統や文化に焦点を当てたトピックを取り入れることで、異文化への興味を育むことも目標の一つとする。TOEIC L&R500以上の英語力を身につけることを目指す。</p>
英語圏留学入門	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、次の2点を重点項目として講義を行う。Ⅰ 英語圏留学に関する基礎知識についての学修(文化・習慣・社会情勢: 留学事情や留学する際の危機管理)。Ⅱ 空港・機内・ホテル・観光地・ホームステイ先等でのコミュニケーションスキルの学修。具体的には、以下の3点を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 出国から帰国するまでに遭遇する場面で必要とされるコミュニケーション力の修得。 ② 出国から帰国までに求められるコミュニケーションスキルへの理解。 ③ 「わたしの留学」をテーマに自分がプランした留学のプレゼンテーション。
英語コミュニケーション1	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、基本的な文法学修、語彙学修、リスニングとスピーキングの練習を組み合わせることで、英語でのコミュニケーション能力を向上させることを目標とする。TOEICの練習問題を解くことで、TOEIC L&R 350以上の英語力を身につけることを目指す。毎週の文法と語彙のミニテストを行うことで学修を深め、ペアワークやグループワークのスピーキング活動を通じて、修得した文法や語彙を練習する。さらに、他国の伝統や文化に焦点を当てたトピックを取り入れることで、異文化への興味を育むことも目標とする。</p>
英語コミュニケーション2	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、英語コミュニケーション1を踏まえ基本的な文法学修、語彙学修、リスニングとスピーキングの練習を組み合わせることで、英語でのコミュニケーション能力を向上させることを目標とする。TOEICの練習問題を解くことで、TOEIC L&R 400以上の英語力を身につけることを目指す。毎週の文法と語彙のミニテストを行うことで学修を深め、ペアワークやグループワークのスピーキング活動を通じて、修得した文法や語彙を練習する。さらに、他国の伝統や文化に焦点を当てたトピックを取り入れることで、異文化への興味を育むことも目標とする。</p>
エコツーリズム論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、エコツーリズムを理解するために、以下4点を体系的に講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 地球の環境問題 ② 観光(ツーリズム)の発達 ③ 自然観光資源の保全と利用 ④ 地域における観光マネジメント <p>講義ではこれら4つの分野を体系的に学び、エコツーリズムの基本概念を理解した上で、国内外の事例を提示し、エコツーリズムの計画、マーケティング、実践、マネジメント、評価、顧客管理などに関して総合的に学ぶことを目的とする。また知識の修得だけでなく、学生が地域を選択し、その地域でのエコツーリズム実践プランを作ることも目標とする。</p>
演習導入	<p>本科目は、演習科目である。</p> <p>本科目では、演習科目担当者の専門領域を把握し、国際観光学における自らの研究領域を決定する。第7回目までは各担当者が自ゼミでの学びや活動実績等を交代で講義する。(1回)第8回以降は担当者が専門演習への導入教育を実施する。(8回)観光学が多様なアプローチから研究される実践的な学問であることを理解し、自らが何を専攻していくのかを主体的に考える。(オムニバス方式/全15回)</p>

授業科目の名称	講義等の内容
大阪観光学	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、阪南大学が立地する「大阪」を題材に、まず大阪の地勢や自然、歴史、交通、観光政策などの基本的な理解を深めるための講義を行う。大阪の観光資源といえば、大坂城や通天閣、USJなどが思い浮かぶが、実際には多様な観光資源があり、それらを活かしたさまざまな取り組みが行われている。大阪にある多様な資源を観光学の視点から取り上げ、その価値や魅力を理解し、それらを活用する方法や可能性を学ぶ。合わせて、インバウンドやIR、万博といった昨今の大阪を取り巻く観光の話題も取り上げ、大阪の観光政策の展望についても理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(9 森重昌之/3回) 授業紹介・振り返り・言語文化 (3 和泉大樹/1回) 大阪平野に形成された中・近世都市 (11 大谷新太郎/1回) 大阪から西へ向かう船旅 (15 山口哲史/1回) 近世大坂の都市形成 (12 Matthew Caldwell/1回) Looking back and looking forward－2つの万博と大阪 (4 塩路有子/1回) 大阪と博覧会 (13 重谷陽一/1回) 大阪の航空・空港 (5 清水苗穂子/1回) 大阪の着地型観光 (14 長谷川明彦/1回) 大阪の観光政策 (8 福本賢太/1回) 大阪の集客ビジネス動向 (1 松村嘉久/1回) 上方芸能の伝統と現在 (10 鷺崎秀一/1回) 地下鉄御堂筋線の歴史から見る近代都市大阪 (16 渡辺和之/1回) 大阪の祭りとその文化</p>
オセアニアの地域と観光	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、多民族で多文化なオセアニア社会について講義する。授業内容は、以下に掲げる3点から学ぶ。</p> <p>①オセアニア地域の基本事項(自然・文化・歴史・政治・経済など)を把握し、地域の特性について。 ②オセアニアの歴史的な歩みと現状を把握し、グローバルな視点から世界との関わりについて。 ③オセアニアにある文化資源に注目し、それらの歴史的・文化的意味を理解したうえで、観光資源としての活用法について。</p> <p>これらを学ぶことで、オセアニアの地域の魅力への理解を深める。</p>
音楽産業論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、ポピュラー音楽産業をテーマに、権利ビジネスの仕組みと基礎知識について講義する。特に、技術の進歩が産業にどう影響を与えるか、「ハード」と「ソフト」の両面から考察する。受講生は、音楽、とりわけポピュラーミュージック業界を「産業」と捉え直し、BLTC=B(ビジネス)・L(Law=法律)・T(テクノロジー)・C(クリエーティブ)の4つの切り口からの理解を行う。併せて、音楽著作権と原盤ビジネス(ミュージシャンをとりまく利権団体とレコードの仕組み)についての事例から、知識の修得と理解を深める。</p>
観光会計論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、企業の事業運営・事業活動の現場では、経営資源(ヒト・モノ・カネ・情報)の一つである「カネ」に関する実学的な知識と理解を深めるための講義を行う。具体的には、財務諸表(貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書)や決算書・経営分析指標に関する基礎知識を学ぶ。併せて、会計学の見地から観光関連企業を考察・分析・評価、又その事業特性や課題を探究できる素養を身につけることを到達目標とする。本授業内容を通して、『ビジネス会計検定試験3級』レベルの知識を修得する。</p>
観光開発論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、世界銀行の開発プロジェクト調査や、経験および知識をもとに開発途上国と先進国の政治・経済・社会問題について講義する。前半では開発途上国や欧米、日本における観光リスクについて、とくに環境と開発、地震、津波、火山噴火、ハリケーンやサイクロン、台風などの自然災害の影響、テロ問題と対策、デモ活動、新型感染症と新型コロナウイルス問題等について講義する。後半では台頭する中国を念頭に、チャイナ・リスク、米中新冷戦、香港の民主化問題、台湾の発展過程と中台問題について詳解する。</p>
観光企業論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、旅行業に関わる関連企業等の経営・営業戦略について講義する。観光関連企業の実務内容について学修し、「観光企業の仕事」の実際について修得する。具体的には、旅行業の現況と経営戦略、添乗業務、会員制リゾートホテル、地域へのインバウンド誘致、テーマパークのマーケティング戦略、航空会社の営業戦略とグランドスタッフ、観光協会の業務、DMOの役割と業務、JRの観光開発、土産物開発、都市観光と地域活性化、日本の旅館文化等の視点からそれぞれの業務について理解を深める。</p>
観光経営学	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、国際観光学科における「観光事業」分野への第一歩となる学びを行う。具体的には、経営資源(ヒト・モノ・カネ・情報)の役割や有効な活用法、経営学の理論概要や基礎知識を修得するための講義を行う。その上で、代表的な観光産業(旅行業、運輸業、宿泊業、観光施設)や観光地経営(DMO、DMC)の事業特性を掴み、ビジネスの仕組み、収益構造、事業内容等、観光経営学の基本的な知識と理解を修得する。</p>
観光計画論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、観光計画を考える上で基礎となる地域や地域社会、地域住民、地域外の人びと、まちづくりなどの用語を整理するとともに、観光の本質的な特性を修得する。そして、まちづくりと観光それぞれがどのように変化したか、観光まちづくりへと展開してきたか、またその過程で地域内外の多様な人びとがまちづくりにどのように関わっているかなど、観光まちづくりの現状と課題を整理する。その上で、地域社会の再生に向けて観光まちづくりをどのように進めていくかについて、具体的な事例を交えながら、そのしくみや実践方法を学ぶ。</p>

授業科目の名称	講義等の内容
観光経済学	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、導入教育として、身近な事例を挙げながら、観光を経済的な視点から講義を行う。具体的には、3つの観点から観光と経済について学ぶ。</p> <p>①観光客の立場で、観光客はどのような視点で観光を計画しているのか、その際経済的な視点は考慮しているのかなどについて、学生自らの経験などを通じて考える。</p> <p>②企業の立場で考える。企業はどのような商品を提供し、いかに利益を生み出しているのかについて考える。</p> <p>③地域の立場で、地域はどのように観光客を受け入れているのか、地域に経済効果はあるのかについて、学生の地元を事例にして考える。</p>
観光交通論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、観光と交通の関係を理解し、交通の歴史や特徴を概観した上で、現在の観光における観光交通の現状と将来へ向けての課題を学ぶ。観光交通の概念、観光施設や観光地と交通の関わり、観光交通産業の種類、特徴、ビジネスモデルとその現状、サービスのあり方なども含めたマーケティングなどについて学ぶ。合わせて、インバウンド観光における観光交通、シェアリング・エコノミーと観光交通、観光地の二次交通、観光車両の乗り入れ規制、MaaSなどの地域社会と観光交通の課題について、さらにヨーロッパのLRTや自転車を利用したまちづくり、航空会社のカーボンオフセットなど観光交通と環境問題についても学ぶ。</p>
観光事業論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、観光・集客事業を担う観光事業者について、観光事業共通の特性を踏まえ、それぞれの事業の役割、機能、集客への取り組み等について講義する。具体的には、まず観光・集客をもたらす様々な効果を知るところから始まり、観光を構成する要素や仕組みを大枠で捉える。そして、個別の産業である旅行業、宿泊業、交通運輸業、テーマパーク等の施設等について個別にその特徴や課題について学んで行く。また観光事業に大きな影響を与えると考えられる国の役割(観光政策の実施)、地域の観光振興を担う自治体等の役割についても理解を深める。</p>
観光資源解説方法論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、観光資源を探索するの調査方法、ツアーを企画する手順、観光客を案内する心得や話術を修得させることを目標とするための講義を行う。観光学の実証的研究を進める上で、観光案内を行なう知識や技術を修得させる意義は大きい。ガイドは文化観光を成立させる観光資源を探ることから始め、ツアーを構成し、客を案内するに至るまでの一連の作業を行う職種である。講義ではその姿勢と方法を解説する。受講生は自ら観光調査を行なえる基礎知識と方法、ツアーを造成できる発想力と構成力、解説資料を作成する作文力と図面作成能力、人をひきつける話術などを修得する。</p>
観光資源論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、観光や資源の定義を踏まえた上で、観光資源の定義や分類、観光施設について講義する。観光資源を含めた観光対象は、観光地や観光商品を構成する際に不可欠な要素であるが、同時に観光資源は地域の魅力を再生したり、創造したりするなど、地域社会の生活や文化にとっても欠かせない。観光資源の基本的な特性を理解し、それらを保全しながら利用する、観光資源の持続可能なマネジメントの考え方や具体的な方法を修得する。さらに、観光資源のマネジメントやそのしくみが地域づくりにつながることを学ぶ。</p>
観光情報論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、観光現象と情報及び情報通信技術(ICT)をめぐる諸問題をテーマとして扱い、現代の観光現象において情報が持つ意味を、観光者、観光に関わる企業、観光者を迎え入れる地域の視点から講義する。特に観光者の情報収集による問題解決や、サプライヤーが提供するサービスを利用する権利の流通に焦点を当てて。また、ICTが現代観光にもたらしている変化を整理するとともに、観光に関わる企業・地域におけるICTの利用・活用のあり方について主にマーケティングの観点から理解を深める。</p>
観光人類学	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、20世紀後半以降、地球規模での人の移動が、マスツーリズムとともに世界各地で経済効果というプラスの影響と、自然環境の破壊や汚染、犯罪や売春の増加、貧富の差の拡大、病気の流行、伝統文化の変容などのマイナスの影響を及ぼしたことを含め、観光現象を人類学的にとらえた視点から講義する。具体的には、国際観光の歴史と意味、観光の型と観光行動、ホスト社会の文化、ホストとゲストの関係、観光開発、観光イメージの形成、観光がつくりだす文化について、世界の多様な事例を取り上げて学ぶ。</p>
観光政策論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、長引く経済不況、少子高齢化など厳しい環境にあるわが国にとって、観光は成長が期待される領域であることをふまえ、国や地域が観光を通じて暮らしを豊かにし、経済振興を成すためには、どのような政策を講じていくべきかについて講義する。授業は、将来の観光政策人材の育成を目標に、観光データの見方や統計学の基礎、観光政策を立案する力を醸成すべく以下の3部構成で授業を進める。</p> <p>第1部:地域資源の観光価値と休暇制度 第2部:統計基礎、データを可視化する方法の学修 第3部:ITや投資・防災等多角的な観点から観光を捉え思考力の養成</p>
観光調査法	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、調査法を学ぶことの意義、社会調査の歴史をはじめとして、観光調査の基礎的な知識と技法の修得を目標とする講義を行う。講義前半は、調査対象からデータを集め、その性質を統計学的に探る量的調査方法を学ぶ。講義後半は、数量のみで捉えきれない情報を収集し、その性質を探る質的調査方法を学ぶ。観光研究ではフィールドワークを行う機会も多く、受講生は、講義を通して質的調査のイメージを掴み、量的調査との違いを修得する。</p>
観光地理学	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、空間・場所・地域・分布・立地・中心地理論・空間的相互作用・バトラーの観光地ライフサイクル論など、まずは観光現象を理解するために不可欠な地理学概念を学び、空中写真・衛星画像や地図などの地理情報の収集方法を学ぶための講義を行う。加えて、地域の実態を把握し地域の課題を発見する方法として、フィールドワークを企画して実践するプロセスを学ぶ。受講生の理解を深めるため、適宜、観光地域がなぜ発生して、どのような環境のもと成長したり衰退したりするのかを、事例を通して学ぶ。</p>

授業科目の名称	講義等の内容
観光と芸術	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、主としてアジアの芸術作品を対象としながら、歴史的、文化的背景について講義する。具体的には、アジアの美術史を知ることで、芸術作品の生まれた文化的背景を歴史的に学ぶ。また、芸術作品はなぜ観光を促進するのかを理解することで、芸術作品を対象とした観光や町づくりの問題点と可能性について考える。受講生には、芸術作品を通じて、隣人の歴史や文化を知るための糸口として欲しい。また、すぐれた芸術作品は人々を美の世界に誘う力を持つ。それを観光の分野でどのように利用したらよいのかへの理解を深める。</p>
観光と宗教	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、各地に存在する巡礼文化について学ぶことで、観光学を志す者として知っておくべき教養を深め、同時に世界の見方や考え方を身に付けるための講義を行う。まずは日本国内で行われている巡礼文化、ついで世界三大宗教にて行われる巡礼文化についての基礎的な知識の修得を目指し、比較文化的な観点からの考察を試みる。また、文学作品や映画作品にて巡礼がどのように表象され、位置付けられているか、またそこから窺える各地の文化や精神性などについても学ぶ。</p>
観光とホスピタリティの心理学	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では以下3点を重点的に講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①なぜ人は観光をするのか。 ②どのような観光商品を購入したいと考えるのか。 ③観光をしている時の人の心理状態はどのようなものか。 <p>観光という社会的かつ消費的な行動、また観光者のさまざまな観光行動について、社会心理学を基本にして社会学なども援用しつつ、心理学の視点から「観光」にアプローチする。この授業を通して、心理学が社会の事象や個人の行動をいかにして分類したり測定したり理論化したりするかを具体的に学ぶことができる。観光についての概念、簡単な歴史や分類、これらを概観した後、旅行者の観光地の選択プロセスや選択要因の分析、観光に対する満足度の分析などを解説する。</p>
観光マーケティング論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、初めてマーケティングを学ぶ学生を受講生とし、マーケティングやサービスマーケティング、観光マーケティングの基礎理論・知識を学び体系的に理解する。授業全体を通して観光に関わる企業や組織、あるいは地域がどのようにして“お客様に選ばれるための努力”をしているのか、あるいは努力すべきなのかについて講義する。前半では観光マーケティングの基礎理論・知識を中心に授業を展開する。後半ではグループワークを通して観光産業、観光地のマーケティングについて事例とともに理解を深める。</p>
観光民俗学	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、日本各地の風俗慣習及びこれに伴う生活用具等の推移から各地の生活の変化を考察し、観光行事と化している民俗行事についての知識を深めることを目標とする講義を行う。全国各地には私たちの知っている風習もあれば知らないものもある。ある地域では正式なものだが別の地域では逆の場合もあるし、また変化の推移が全く異なる場合もある。まずは今日の生活に連なるものとして関心をもち、その上で、過去の日本人の生活に触れる喜びを味わい、暮らしと結び付いた観光の在り方の可能性への理解を深める。</p>
観光歴史学	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、近世に至るまで日本の中心地として数多くの文化財を残す奈良・京都・大阪・神戸などの畿内諸地域で企画することができる歴史観光のモデルコースについて講義する。講義を通じて、歴史や文化に対する造詣が新たな観光を生み出すためにいかに必要であるかを実感させ、観光事業の推進に歴史学についての知識と理解が必要不可欠であることを学ばせる。観光資源を見つけて活用するために必要な歴史学の知識を修得することや、日本の政治や文化の中心的地域である畿内の史跡を広く知ることにより、受講生は具体的かつ視覚的に歴史を学ぶ方法を修得する。</p>
韓国語検定講座a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、韓国語初級レベルの受講生が、韓国語検定試験を取得するための講義を行う。まず、日本語を母語とする受講生を対象に、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「ハングル検定試験の初級(5-4級)」(ハングル能力検定協会主催) ②「TOPIK I (1-2級)」(韓国教育省認定・主催) <p>の合格を目指す。講義では、初級レベルの読む・書く・聞く・話すなどの総合的能力を定着させるとともに、過去問や模擬問題を解きながら出題傾向と出題形式を把握し、本試験に備えていく。また、副教材として初級単語800を用い、合格に必要な語彙力を修得する。</p>
韓国語検定講座b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、韓国語中級レベルの受講生が、韓国語検定試験を取得するための講義を行う。まず、日本語を母語とする受講生を対象に、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「ハングル検定試験の中級(3級)」(ハングル能力検定協会主催) ②「TOPIK II (3-4級)」(韓国教育省認定・主催) <p>の合格を目指す。講義では、試験に出題される「聴き取り」・「作文」・「読解」の全ての項目に対し、パターンを分析・理解・応用の上で、解答力を取得する。また、副教材として中級単語1800を用い、合格に必要な語彙力を修得する。</p>
韓国語コミュニケーション1	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、はじめて韓国語を学修する学生を対象とした初修学修者向けの入門クラスである。テキストを用い、以下を体得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①韓国語の文字(ハングル)の仕組みを正確に理解する。 ②母音・子音・終音(パッチム)・発音の変化の学修を重ね読み書きができるようになる。 ③基礎的な文法「～ですか/です」「～ますか/ます」の表現や過去形表現を修得する。 ④基礎的な文法と文型を使い簡単な挨拶や自己紹介等の初歩的の日常会話を修得する。 ⑤ペアワーク・グループワークで学んだ表現を使ったコミュニケーション力を高める。 <p>語彙レベルは、韓国語能力試験(TOPIK)初級(1級)、ハングル能力検定試験5級程度とする。</p>
韓国語コミュニケーション2	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、初修学修者向けのクラスとして、入門クラスの「韓国語コミュニケーション1」で、韓国語の文字の仕組みを理解し、読み書きができるようになっていくことを前提として展開する。テキストに従い、各課における語彙の学修とともに、初歩的な日常会話ができる基礎的な文法と文型を中心に学ぶ。多数の例文を用いながら復讐的に文型練習を行い、会話の中で学修した文法項目をしっかりと使いこなせるように取り組む。ペアワーク・グループワークを通して、様々な表現を身につけることで韓国語コミュニケーション能力を高めていく。レベルとしては、韓国語能力試験(TOPIK)初級(1級・2級)、ハングル能力検定試験5級程度を修得する。</p>

授業科目の名称	講義等の内容
韓国語コミュニケーション3	本科目は、講義科目である。 本科目では、「韓国語コミュニケーション1」と「韓国語コミュニケーション2」で学修した基礎知識を基盤に表現力を定着させ、初級から中級への橋渡しをおこなう。テキストに沿って、各課における語彙の学修とともに、中級レベルの実用的な文法表現を学修する。多数の例文を用いながら反復的に文型練習を行い、学修した文法項目を活用できるようになるための講義を行う。ペアワーク・グループワークを通して、様々な表現を身につけることで韓国語コミュニケーション能力を高めていく。レベルとしては、韓国語能力試験(TOPIK)初級1級、2級、ハングル能力検定5級、4級レベルの語彙力と表現力を修得する。
韓国語コミュニケーション4	本科目は、講義科目である。 本科目では、「韓国語コミュニケーション3」に引き続き、中級レベルから上級レベルへのステップアップを目標に、授業の中で文章の正確な読解力と表現力、会話運用力など実践で活かせる総合的な韓国語力を高めるための講義を行う。使用するテキストにおける各課の新出語彙、文法の理解と本文のダイアログをベースに、会話練習、語彙の置き換え練習、リスニング問題、作文問題などを通して、様々な状況で実際に使える表現を修得する。
韓国語実用会話1	本科目は、講義科目である。 本科目では、「韓国語1」と「韓国語2」で学修した成果をふまえ、実際の場面で使いこなすための会話練習を中心とする講義を行う。「韓国語1・2」で修得した最も基礎的な文法である体言と用言の肯定文と否定文(「～です・～ではありません」「～ます・～ません」)、現在形と過去形、存在詞(ある・いる)、漢数詞などを用いた文型を使いこなしながら、流暢な会話を修得する。ペアワークとグループワークを通して、自己紹介、位置、日付、電話番号、買い物、予定、過去の出来事などについて会話できるように練習する。とっさの場面でも対応可能な高いコミュニケーション力を学ぶ。
韓国語実用会話2	本科目は、講義科目である。 本科目では、「韓国語1」と「韓国語2」で学修した表現を汎用的に活用するための会話練習を実施する。上記科目で修得した固有数詞、勧誘、願望、尊敬、許可、禁止の文型を使いながら、流暢な会話力を修得する。ペアワークとグループワークを通して、時刻、依頼、提案、許可、計画についてなどの諸事項を軸として、買い物、注文、病院などの場面での会話ができるようにコミュニケーション力を高め、十分なコミュニケーションが取れる力を修得する。
韓国語で日本案内	本科目は、講義科目である。 本科目では、韓国から日本を訪れる方々を迎え入れ、観光案内することを想定し、空港、駅、ホテル、飲食店、観光地などの場所で、相手の意向を尋ね、要求を理解し、それに応えることができる表現などを学修する。毎回、案内する場所とシチュエーションを具体的に設定した上で、想定される状況に最も適した表現を中心に学ぶ。基本的な観光用語や表現のみならず、日本の社会や文化についても分かりやすく説明するなど、おもてなしができる韓国語の実践会話や応用会話にもチャレンジする。自分の考えを述べ、日本文化について伝えるとともに、相手のことを理解することで、より円滑なコミュニケーション力を修得する。
韓国語ビジネス1	本科目は、講義科目である。 本科目では、基本的に初級または中級レベルの課程を修得した学生を受講生として、接客のための敬語表現を使いこなすフォーマルな実用会話能力を修得するための講義を行う。挨拶から飲食、販売、宿泊そしてレジャーまでのビジネス・シーンに対応するために、あらゆる接客現場を想定したフレーズを利用し、現場ですぐ役に立つよう関連語彙・表現などを中心に学修する。さらに、お客様からの質問、呼びかけ、要求などの状況に応じて柔軟に対応でき、伝えたい内容を自分の言葉で表現できるレベルまで、コミュニケーション力を高める。
韓国語ビジネス2	本科目は、講義科目である。 本科目では、「韓国語ビジネス1」を修得した学生、または中級レベルとそれ以上の学生を受講生として、敬語表現を用いたフォーマルなビジネス文書の作成能力を修得し、ビジネス現場で対応できる実用性の高いコミュニケーション力を身につけるための講義を行う。業務電話、メールやFAX、議事録、報告書、稟議書などの書類作成について理解し、業務遂行に必要な文章力向上のための練習をおこなう。特に日本語の敬語は相対敬語であるが、韓国語の敬語は絶対敬語であることに留意し、ビジネスの現場でのやり取りには敬語表現が必要不可欠である点に注意しながら適切に対応する方法を学ぶ。適切なビジネス文書の作成、ビジネス関連の語彙や表現の修得、聞き手が必要とする情報を正確に伝達できる高度なコミュニケーション力の涵養を行う。
基礎演習	本科目は、演習科目である。 本科目では、それぞれの担当教員の専門研究分野について学ぶため、大学やゼミで学修および研究する際に必要とされる基礎知識や基本的なスキルを修得する。具体的には、研究課題を発見する方法やさまざまな資料を検索・収集・整理する方法、文献の輪読、フィールドワークの実施方法やそのための事前準備、プレゼンテーション資料の作成方法、口頭発表や質疑応答の作法や方法など、専門研究分野に応じた学びを展開する。これらを通して、3年次以降の専門演習での学びへとつなげていく。
グローバル・イシュー	本科目は、講義科目である。 本科目では、マスメディア、特に新聞、放送報道に焦点をあて、国境を越えたグローバルな課題を考察し、その成立過程を理解することで今後の展開、対応について講義する。グローバル化の広がりによって人、モノ、金、サービス、情報が国境を越えて行き交う一方で、温暖化や人口問題、資源をめぐる紛争は人類の課題となっている。それらについての国内外の報道を手掛かりに具体的事例を取りあげ、原因を歴史的に分析し解説することで解決に向けた取り組みへの理解と学びを修得する。
グローバル・ガバナンス論	本科目は、講義科目である。 本科目では、一国のみでは解決できないグローバルな広がりを持った諸問題をいかに多国間の協力によって解決し、ガバナンスを成立させていくのかという問題を講義する。現代国際社会において、一国のみでは解決できない問題は、安全保障、経済、環境、人権、移民・難民など、さまざまな分野で見つけることができる。それらの問題は、一国のみでは解決できない以上、多国間の協力によって解決するしかない。授業では、その多国間協力を実現するにはどのような条件が必要で、それがどれほど難しいことなのかについて考察する。その際、国家だけではなく、国連などの国際機関やNGOなどの多様なアクターの果たす役割についても学ぶ。

授業科目の名称	講義等の内容
Kpopとドラマで学ぶ韓国語	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、韓国語の入門クラス「韓国語1」で、文字・発音・基礎文法を修得した初修学修者を受講生として、リスニングとシャドーイングをおこなう。日本語と韓国語では発声方法や喉、舌の使い方が違う為、微妙な発音の違いが表現できなかつたり、聞きとれない事が多い。これを克服するために、日本でもよく知られているKpopのサビの部分を中心に、リスニングとシャドーイングをおこなう。併せて、歌詞に使われた簡単な文型も学修する。また、ドラマの一場面を通して、自己紹介や趣味など日常生活に関連する決まり文句を身につけることで韓国の文化にもふれる。発音の基本と抑揚、発音の変化の決まりなどを知り、ネイティブに近い韓国語発音で会話ができるようになるための土台作りを目指す。</p>
現代アメリカ文化論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、歴史的知識を踏まえて、アメリカを基軸として、世界に広がる英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化を理解することを目的とした講義を行う。発表やグループ討議を行うことで、実際に英語を使い、将来英語を教える際に、単なる語学としての英語ではなく、文化の中で使われている生きた英語を教えることが出来るような知識の修得を目指す。併せて、英語圏であり、英語教育という点からも日本にとって身近な国であるアメリカの歴史や社会状況についての理解を深める。</p>
現代企業事情	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、日本社会は予測困難な時代をむかえ、将来へのキャリア形成が見通しにくい状況下、自らの価値観に沿う最善の職業を選択することが極めて難しい判断であることをふまえ、受講生は観光産業以外の業界・企業に着目、多種多様な業界・企業により構成される実社会を俯瞰するスキルを身に付けるための講義を行う。それは、職業選択の幅を拡充することでもある。受講生自らが実社会を知る手段(アンテナ)を携え、自らの価値観に沿う職業選択を具体的に検討し判断できるスキルを修得する。</p>
現代地理学a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、現代における生活と結びつきの深い学問である「地理学」の中で、日本および世界の地誌について、主として自然破壊と環境・文化をテーマとして講義を行う。具体的には、①世界の気候及び自然(熱帯・乾燥帯・温帯・寒冷帯)、②世界遺産とまちづくり、③暮らしと文化、の3点の観点から考察を行う。受講生は、課題として提示するフィールドリサーチに向けて、毎回のテーマについて知識を拡充し思考を深めていくことで、事象に関連付けるための考察力と分析力を修得する。</p>
現代地理学b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、現代における生活と結びつきの深い学問である「地理学」の中でも、「現代地理学a」の学修内容をふまえ、社会的に話題となった事柄と地理学に紐づくの関連分野と連動させながら結びつけた理解を行う。具体的には、①地図—その歴史と地図投影法・GIS(国土地理院)、②人口問題—世界および日本(市町村合併)、③スポーツと地理学の3点の観点から講義を行う。受講生は、課題として提示するフィールドリサーチに向けて、毎回のテーマについて知識を拡充し思考を深めていくことで、事象に関連付けるための考察力と分析力を修得する。</p>
航空産業論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、エアライン業界について全般的に学ぶ。航空業界の歴史を通じてその役割と変遷を理解する事により航空産業の現状と将来の展望を理解する事が出来る。また、新しい経営形態であるLCCの出現や自動化の進む航空産業の将来を検証する。航空産業の歴史の学修によりその特性を学び、航空産業が果たした役割を理解し、新たな時代に突入した航空業界の課題および問題点を検証する。さらに、これからの航空産業の役割を理解する。</p>
国際学への招待	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、国際学部での学びを始めるにあたり「国際学」の基礎的な知識を修得し、現代的諸問題の中から抽出されるテーマと知識を拡充するための講義を行う。(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(25 権隆/2回) 授業紹介・振り返り・言語文化 (22 岡本芳和/1回) 言語文化 (23 神尾登喜子/1回) 日本の文化理解 (12 Caldwell,Matthew/1回) 多文化理解 (7 中山恵利子/1回) 多文化理解 (19 井上裕司/1回) 国際政治と国際経済 (6 段家誠/1回) 国際秩序 (14 長谷川明彦/1回) 国際経済 (60 武藤麻美/1回) 各論 日本と欧米 (1 松村嘉久/1回) 各論 アジア (34 坪井兵輔/1回) 各論 ヨーロッパ (37 橋本英司/1回) 各論 ヨーロッパ (4 塩路有子/1回) 各論 ヨーロッパ (16 渡辺和之/1回) 各論 アジア</p>
国際観光学特別講義1	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本学科における以下に掲げる学びの3領域をベースに体系的な学びを構築する上で、これら各領域の専門性をさらに高めることを目的とし、トピック的、時事的課題などが顕著に意識されたテーマをもとに講義が展開される。</p> <p>①文化の多様性や異文化を通じた自文化の理解を深める「観光文化」 ②地域資源を活かして魅力向上や地域再生を考える「観光計画」 ③観光を産業的・経済的に捉えて多様な問題解決をめざす「観光事業」</p>
国際観光学特別講義2	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本学科における以下に掲げる学びの3領域をベースに体系的な学びを構築する上で、これら各領域の専門性をさらに高めることを目的とし、トピック的、時事的課題などが顕著に意識されたテーマをもとに講義が展開される。</p> <p>①文化の多様性や異文化を通じた自文化の理解を深める「観光文化」 ②地域資源を活かして魅力向上や地域再生を考える「観光計画」 ③観光を産業的・経済的に捉えて多様な問題解決をめざす「観光事業」</p>

授業科目の名称	講義等の内容
国際観光学特別講義3	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本学科における以下に掲げる学びの3領域をベースに体系的な学びを構築する上で、これら各領域の専門性をさらに高めることを目的とし、トピック的、時事的課題などが顕著に意識されたテーマをもとに講義が展開される。</p> <p>①文化の多様性や異文化を通じた自文化の理解を深める「観光文化」 ②地域資源を活かして魅力向上や地域再生を考える「観光計画」 ③観光を産業的・経済的に捉えて多様な問題解決をめざす「観光事業」</p>
国際観光学入門	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、初めて観光や国際観光を学問として学ぼうとする受講生が、その後の専門的な学修につながるよう基礎となる概念や知識を修得するための講義を実施する。加えて観光現象に関する最新動向を把握するための内容や観光業界へのキャリア意識を高めるための内容も取り扱う。まず観光現象について基本的な理解の仕方を学ぶ。そして観光の歴史や諸制度、社会とのかかわりについて学び、人の営みとしての観光の本質に迫る。加えて学問としての「観光学」とは何か、その考え方とアプローチの特徴を学ぶ。</p>
国際協力論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、今日の世界が抱える、経済・財政・金融・貿易問題、南北問題、環境と開発・貧困・難民問題等、様々な課題と、これらの諸問題解決への試みがどのような枠組みで行われているか、それらに関連して生じる問題について明らかにすることを目的として講義を行う。講義で扱う、政府開発援助(ODA)問題、世界銀行の組織と事例、国際通貨基金、構造調整融資の問題、中国の「一帯一路」と「債務のワナ」、米中新冷戦、ダム開発の社会と環境への影響、アメリカの食糧援助、緑の革命の功罪、世界銀行のインスペクション・パネル制度等への理解を深める。</p>
国際経済学	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、国際貿易について講義する。本授業内容を修得することで、グローバル経済の動きや、アジア諸国、欧米諸国などの経済と日本経済との相互関係を、ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎理論に基づくモデルを使って理解できるようになる。授業内では理論モデルの演習問題を用いたグループワーク(理論モデルの演習問題)を行う。授業では、国際貿易の理論モデルを使って詳述するが、内容的には労働生産性と比較優位・特殊要素と所得分配・資源と貿易・規模の経済・多国籍企業・貿易政策・貿易ルール・貿易交渉・サービス貿易・地域貿易協定などについて講義する。</p>
国際社会と人間	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、変容する国際社会について理解を深め、国際関係というアプローチから、現代の国際社会の諸問題について講義する。とりわけ、国際社会と戦争、難民問題や国際人権への取り組み、グローバルな人の移動に関する諸事象などを取り上げ、国家という枠組みでは解決しきれない問題と国際社会について、そして今日の国際関係の在り様についても考える場とする。授業では、学生が、戦争と平和やグローバル・イシューなどのテーマを通じて国際関係のあり方と現代の国際社会について知識と理解を深める。そして、授業で得た学識をもとに、学生が国際社会で起こる諸問題について自分の意見を持ち、それぞれの視点で論理的に説明できるスキルを修得する。</p>
国際政治経済論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、経済活動がもたらす不均衡を政治的に是正するためさまざまなアクターが動かす政治過程を分析していく。特に注目するのは、貿易政策、途上国の開発政策、多国籍企業の管理のための多国間協力、国際金融政策の4つの分野である。それぞれの分野で重視するのは、市場競争の結果、勝者と敗者の間に生まれた不均衡を、市場ではなく政治的に是正しようとする経済アクターたちの動きである。例えば、企業や利益団体が経済的利益という観点からどのような貿易政策や金融政策を望み政治過程に関わり政策が決定されるのか。あるいは、経常収支の不均衡に陥った貿易赤字国が貿易黒字国に何を望み国家間交渉をするのかといった内容である。それによって政治と経済の相互作用のなかで、どのように政策決定がなされるのかについて分析していく。</p>
国際平和論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、第2次世界大戦以後の戦争や紛争について、その状況や原因および背景などについてテーマや事例をもとに講義する。日本を取り巻く国際社会では、戦争や紛争、テロ等が多発している。具体的には、世界軍事情勢、9.11事件、アフガニスタン戦争とイラク戦争、アルカイダとイスラム国によるテロ事件、民間軍事会社、国連平和維持活動(PKO)、ルワンダ虐殺、アフリカ紛争ダイヤモンド、少年兵、ナチス第三帝国興亡、本土大空襲、沖縄戦、太平洋戦争、中東問題、米中新冷戦、台湾海峡危機等についての理解を深める。</p>
コミュニティツーリズム論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、観光客が地域コミュニティの人たちとふれあい、相互交流することで成立するコミュニティツーリズム(Community Tourism)の背景、本質、意義について講義する。日本や世界で行われている様々なコミュニティツーリズムの事例、長崎さるく博、大阪あそ歩、大阪旅めがね、外国人向けまち歩きツアーや地誌学的まち歩きツアーなどの実践事例を紹介する。また、受講生たちはコミュニティツーリズムに参加して、その企画、造成、実践の方法を学び修得する。</p>
資格ビジネス英語1	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、リスニング、リーディングを主として基本的な英語力を身につけながら、日常会話、およびビジネスシーンで使用する英語の語彙、表現を学び、TOEIC L&R 400点レベルの修得をする。TOEIC初心者を対象に、TOEIC問題の構成や内容について紹介する。また、各パートの練習を繰り返し解くことで、実際の試験問題を通して、必要なスキルを確認しながら、英語力を向上させていく。各自で設定する目標スコアに向かって学修計画を立て、自律的に学ぶ態度やスキルも培う。</p>
資格ビジネス英語2	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、基礎的なリスニング・リーディング力を強化しつつ、グローバルなビジネスシーンで用いられる英語の語彙、表現を理解し、身につける能力を修得する。またビジネスに関する知識を学び、英語コミュニケーション能力を高めるとともに、TOEIC L&R 500点レベルの英語力を修得する。また、各パートの練習を繰り返し解くことで、英語力向上のためのPDCAを受講生各自が確認しながら、実際の試験問題に慣れると共に、早く解けるようになるための学びを蓄積していく。授業で一斉に学び、さらに各自で設定する目標スコアに向かって学修計画を立て、自律的に学ぶ態度やスキルも培う。</p>

授業科目の名称	講義等の内容
資格ビジネス英語3	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、これまで培った基礎英語力をベースに、日常会話を含め、グローバルなビジネスシーンで用いられる会話ストラテジーの理解を向上させ、リスニングスキルを磨く。また、TOEIC問題に対して、迅速かつ正確に解答できるよう、文法知識の定着を目指す。また、多くの英語のビジネス文書を読むことでビジネス文書の読解力を向上させる。TOEIC L&R 600点以上のレベルに到達するために、各自で設定する目標スコアに向かって学修計画を立て、自律的に学ぶ態度やスキルも取得する。</p>
資格ビジネス英語4	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、グローバルなビジネスシーンで用いられる高度な英語力を駆使できるようになることを目指す。ビジネスに関する語彙量、表現についての知識を増やし、会話、オンライン等で行われるインタラクションに慣れ、英語コミュニケーション能力を総合的に向上する。また、多くの英語のビジネス文書等を迅速かつ正確に読み取る練習を行い、結果としてTOEICのスコアアップを目指す。TOEIC L&R 700点以上のレベルに到達するために、自律的・継続的な学びの態度とスキルも取得する。</p>
集客産業施設運営論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、テーマパーク事業者を中心に集客産業施設運営事業者の経営戦略・事業運営に関する現況を集客ビジネスの視点から講義を行う。具体的には、集客産業施設運営事業者が独自に有する事業特性(装置産業、労働集約型産業等)を踏まえ、継続的な設備投資・人材マネジメント等の諸課題への対応がいかに重要であり、そこにはいかなる戦略性があるのかを学ぶ。『日米のテーマパーク事業者』を中心に、集客産業施設運営事業者の経営戦略・事業運営に関する基本的な知識を修得する。</p>
宗教と社会	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、社会学の立場から宗教が地域社会や国家社会、あるいは国際社会にどのような影響を及ぼし、政治、経済、生活にどのような結果をもたらしているのかについて講義する。高度に情報化が進み、経済活動のグローバル化が進んだ現代の世界においても、宗教は、依然として社会に大きな影響を及ぼしている。中東ではイスラミック・ステイト(IS)がテロリズムを繰り返し、アメリカではキリスト教原理主義団体が大統領選挙を左右するなど、宗教は、国内の小さな共同体における生活から国際政治に至るまで、現代世界のあらゆる階層において、人々の価値観や行動を方向づける「転軸手」としての役割を果たしているといえる。これらへの理解を深めることで、宗教と社会の相互補完性について学ぶ。</p>
宿泊産業論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、宿泊ビジネスの事業経営について、施設・設備に多額の投資を必要とする資本集約型産業であると同時に人的サービスの提供を中心とする労働集約型産業でもあることを学ぶと共に、このような産業特性を持った宿泊ビジネスの特徴や経営に関する基本的な知識、仕組みなど、宿泊ビジネスの全体像について理解を深める。また、今日的テーマとして、成熟した旅行市場における宿泊ビジネスの抱える諸課題の解決や顧客志向経営について、サービスマネジメントやマーケティングの視点から考察し、その知識を身に付ける。</p>
消費者の心理	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、購買者としての消費者の視点から、その心理や行動の現状を知るとともに、企業側の商品・サービス提供に関連するマーケティングやビジネス心理学の理論について講義する。その学修をふまえて、現代社会で扱われる商品およびサービスを消費者の視点について、心理的に動向を概観し、企業側におけるビジネス面からの実践的マーケティング及びその理論について修得する。その学びのプロセスとして、ワークシート作成やグループディスカッションを行うことで、消費者心理について考察するスキルを修得する。</p>
食文化論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、人が生きるための生活の基本である食について講義する。食生活は、人が属する地域や社会、民族の特徴が表れるため、世界のさまざまな食の文化を取り上げ、その多様性と差異を知ること、食を通じた異文化理解を深める。同時に、我々自身の食文化をより広い視野で見つめなおし国際理解を深めることが目的である。具体的には、生活の基礎となる食料を人々がいかに獲得し、保存し加工するのか、そしていかに食べるのかを身近な食物を取り上げながら理解を深める。</p>
西洋史概論a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、日本はもとより世界中の国々に絶大な影響を及ぼしてきた西洋文明について概観する。西洋の歴史的な成り立ちを知ることは、現代世界を理解するためにも重要な教養であるため、西洋史を把握することで、現代世界の諸問題について深く洞察する分析力を修得する。具体的には、①古代から現代にかけての「ユダヤ人の歴史」②古代ギリシア文明の成り立ち、③ローマ帝国、④ヨーロッパ中世、⑤ビザンツ帝国と十字軍の5点の観点から講義を行う。各回に共通して、歴史的出来事がどのような社会的・文化的状況と結びついているか、またその出来事が現代の我々にどのようなかたちで関連を有しているかについて理解を深める。</p>
西洋史概論b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「西洋史概論a」の学修内容をふまえて、西洋の歴史的な成り立ちを把握することで、現代世界を理解するための教養と、深く洞察する分析力を修得する。具体的には、①宗教改革、②大航海時代、③アメリカの独立、④フランス革命、⑤国民国家の発展(ドイツ・フランス)、⑥帝国主義、⑦世界大戦、⑧ホロコーストの8点の観点から講義を行う。各回に共通して、歴史的出来事がどのような社会的・文化的状況と結びついているか、またその出来事が現代の我々にどのようなかたちで関連を有しているかについて理解を深める。</p>
世界遺産論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、世界共通の文化遺産の価値を見出し、評価するための広く深い知識を修得させることを目標とする講義を行う。世界文化遺産条約の成立に至るまでの経緯やその後の運用・課題についての概説を行なったあと、ヨーロッパと日本の世界文化遺産を紹介しながら、世界遺産登録水準をもつ文化的価値を解説する。併せて、文化遺産を理解するための基礎的な知識を修得させる。受講生はオリエント・ギリシャ・ローマ・ヨーロッパの古代遺跡、中世の教会や城郭などについての知識、日本の寺院・城郭・都市景観・神社などについての知識を修得する。</p>

授業科目の名称	講義等の内容
世界地誌学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、地誌学の本質と動態的地誌学の手法を踏まえたうえで、ポピュラー音楽が成立し変容する過程から、その地域や国家への理解を深めていくための講義を行う。音楽としては、ブルース、ジャズ、ソウル、Hip Hop、レゲエなどを扱い、地域としては、アメリカやジャマイカ、スペインなどに注目する。「歌は世につれ、世は歌につれ」と言われるが、現代ポピュラー音楽は特定の民族的特色を持った音楽を起源として、ある地域や国家における社会的・文化的・政治的状況のなかで成立し、時代の流れとともに民族や国家を越えて伝播し変容し洗練されてきた。その本質的な理解と知識を修得する。
世界地誌学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、地誌学の本質と動態的地誌学の方法を踏まえ、アジアの地域や国々の自然環境、民族、文化、社会、政治などを紹介し、多様な現代アジアに関する知識を深め、豊かな国際感覚と空間認識を修得するための講義を行う。具体的には、中華人民共和国、台湾、香港、マカオ、インド、インドネシア、韓国などを取り上げる。注目する事象としては、ホームレスや住宅困窮者、ストリートで展開するアートや飲食文化、オリンピックや万博などのビッグイベント、統合型リゾートやテーマパークなどを取り上げる。これらから地誌学への理解を深める。
接客のための中国語	本科目は、講義科目である。 本科目では、接客に重点を置いてした中国語を学修する。 具体的には、小売・飲食・宿泊施設・交通機関等の業種ごとに必要なフレーズを中心に構成する。教員からの一方通行ではなく、受講生相互にロールプレイを行い実践的な語学力を身につけることを目標とする。中国語圏の人々とコミュニケーションをとるために必要な地理的・文化的な知識もあわせて学修する。語学力とともに、コミュニケーションに必要な中国・台湾についての知識の獲得も目指す。
専門演習1a	本科目は、演習科目である。 本科目では、「基礎演習」で修得した基礎知識や基本的なスキルをベースに、それぞれの担当教員の専門研究分野についてより深く、実践的に学ぶ。具体的には、フィールドワークの調査対象となる地域や企業を設定し、現地視察や聞き取り調査、質問票調査などの実践的な調査を行うほか、調査で得た成果を取りまとめて発表するなど、専門研究分野に応じた学びを展開する。これらを通して、4年次で卒業研究に取り組むための基礎的能力を修得する。
専門演習1b	本科目は、演習科目である。 本科目では、「専門演習1a」に引き続き、それぞれの担当教員の専門研究分野についてより深く、実践的に学ぶ。具体的には、フィールドワークの調査対象となる地域や企業を設定し、現地視察や聞き取り調査、質問票調査などの実践的な調査を行うほか、調査で得た成果を取りまとめて、グループや個人単位で発表するなど、専門研究分野に応じた学びを展開する。これらを通して、4年次における卒業研究に取り組むための基礎的能力を修得する。
専門演習2a	本科目は、演習科目である。 本科目では、「基礎演習」や「専門演習1a・b」で修得した知識や経験を応用して、それぞれの担当教員の専門研究分野についてより専門的に学ぶ。まず学生個人が関心を持つ研究テーマを設定し、背景や目的の設定から先行研究の整理、現状分析、課題抽出、文献・資料調査やフィールドワークを含む現地調査、先進事例調査、調査結果の分析、考察および課題解決に向けた提案、結論に至る一連の研究作業を、学生自身の力で行う能力を身につける。これを通して、論理的思考や社会人基礎力などを養い、社会で生きていくために必要な能力を修得する。
専門演習2b	本科目は、演習科目である。 本科目では、「専門演習2a」に引き続き、それぞれの担当教員の専門研究分野についてより専門的に学ぶ。まず学生個人が関心を持つ研究テーマを設定し、背景や目的の設定から先行研究の整理、現状分析、課題抽出、文献・資料調査やフィールドワークを含む現地調査、先進事例調査、調査結果の分析、考察および課題解決に向けた提案、結論に至る一連の研究作業を、学生自身の力でやる能力を身につける。これを通して、論理的思考や社会人基礎力などを養い、社会で生きていくために必要な能力を修得する。
総合日本語a	本科目は、講義科目である。 本科目では、日本語能力試験N1合格を目的の一つとする学生が、上級レベルの読解力、また聴解力と発話力、さらに語彙力、文法力を身につけることを目指す。読解力・文法力に関しては、基礎力を確認した上で、様々な文体に触れ、文章の構造を読み取る、より高い読解力を身に付けることを目指す。聴解力においても、話の流れ(構成)を聞き取れるようになることを目指す。語彙を増やすためのテストは毎回行う。聴解のための耳をつくるためにも発音・発話練習を行う。
総合日本語b	本科目は、講義科目である。 本科目では、「総合日本語a」を学んだ学生が、日本語能力試験N1合格を目的の一つとして「総合日本語a」の内容を引き続き学ぶ。日本語能力試験N1の教材を用いて、読解、文法・語彙、聴解の力をつけることを目指す。また、聴解のための耳をつくるために、発音・発話練習も継続する。内容が多岐にわたるため、一つ一つにかける時間は少なくなるが、丁寧に学び、力を伸ばす。N1受検後は、丁寧に話す練習を行う。
卒業研究	本科目は、演習科目である。 本科目では、国際観光学科における「観光文化」・「観光計画」・「観光事業」の3分野を基軸とする総合的な学びと、所属ゼミにおける専門的な学びの成果をふまえた研究活動が行われ、それらが卒業論文もしくは卒業制作としてとりまとめる。これまで学んできたことをふり返り、身につけた専門性を生かしかつ関心を持って取り組むことのできる研究課題を、研究計画を立てたうえで、指導教員の助言を受けながら、卒業論文もしくは卒業制作という形で結実させる。
大学入門ゼミa	本科目は、演習科目である。 本科目では以下の4点に重点を置く。 ①カリキュラム体系、情報収集・検索方法、発表技法など、履修や学修にあたり必要となる基本的なスタディスキルを身につける。 ②教員と学生および学生間の密度の高いコミュニケーションを可能とするソーシャルスキルを修得する。 ③観光を題材とするフィールドワークに取り組むことにより、観光現象や観光学への関心を高め、今後の学びに対する意欲を高める。 ④国際観光学科での学びを理解し、専門科目・ゼミなど2年次以降の学びや今後のキャリアデザインにつなげていく。

授業科目の名称	講義等の内容
大学入門ゼミb	<p>本科目は、演習科目である。</p> <p>本科目では、「大学入門ゼミa」の内容をふまえて、国際観光学に対する現場感覚と学修意欲を高めるため、受講生が関心を持ちやすいテーマを各教員の専門領域に応じて設定し、授業を展開する。具体的には、次の①から④のスキルを修得する。</p> <p>①フィールドワーク(フィールドワーク力・調査力・分析力) ②ディスカッション(グループワーク力) ③プレゼンテーション(発表スキル) ④レポート作成(客観的論理展開力・引用の仕方など)</p>
対人コミュニケーション心理学	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、対人コミュニケーションについての理解を深めるための講義を行う。学業生活や対人関係、就職活動などの日常のコミュニケーション場面で活用できるようになることを狙いの一つとする。対人コミュニケーションに関する基礎的概念や理論について、社会心理学や臨床心理学などの知見をもとに解説する。適宜、ワークも用いながら、自己のコミュニケーション・スキルについても検討する機会を設ける。前半は対人コミュニケーションに関する基礎的知識を修得する内容とし、後半は現実場面でも利用できる応用的内容を扱う。</p>
台湾華語	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、授業や日常の挨拶・会話で使う簡単な文章の会話学修から入ることで、まず外国語学修に対する抵抗感を軽減する。また、繁体字に対する拒否感を持たせないためにも、日本の漢字との相違点・類似点、基本的な旁(つくり)の学修により、個々に繁体字を覚えるのではなく、体系的かつ効率的な繁体字修得を目指す。発音練習の際には、基礎の会話に必要な単語、学生が興味を持てる単語や、必要最低限の数詞・量詞を意識的に用いることで、文法学修に先立ち、耳と口を台湾華語に慣れさせ、中国語作文・読解に必要な重要表現を修得させる。あわせて、台湾の社会や文化についても情報収集を行い、異文化理解を深める。</p>
旅の文化史	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、日本人の旅とそれに関わる様々な歴史的文化的遺物を史的に展望する。日本各地そして各時代における旅文化の成立過程を理解し、今後の観光文化の探求へとつなげることを目標とする。まずは現代の旅に関する基礎知識の確認と文化的事象の整理をし、ついで大きな街道の成立を古代から時代順に追う。近現代についてはモータリゼーションやグローバリズムとの関連も視野に、今日に通じる旅文化の代表的事例を解説する。後半は旅の目的として欠かせない寺社の変遷や種類について学ぶ。</p>
多文化社会論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、いかに多文化共生社会を作り上げていくのか、その条件について講義する。この授業で注目するのは、社会的対立の背景にあるのが、本来は経済的格差であるのに文化的差異だけが強調されてしまうような場合である。単に異文化の理解が進めば多文化共生が成立するわけではなく、政治・経済制度などさまざまな条件が必要であることを示していく。ひとつの社会に多様な文化が存在するときには発生する文化的葛藤は、ヘイトクライム、ヘイトスピーチ、レイシズム、場合によって内戦などの問題を引き起こすことがある。それらを乗り越え、多様な文化が共生する社会を構築するためには、単なる異文化理解だけでは不十分であることへの理解を深める。</p>
地域データ分析	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、演習を通じて分析力を身につけることを目標とする講義を行う。長引く景気低迷により、国、地方自治体ともに厳しい財政運営を強いられる状況が続いている。地域が活気を保ち、持続的発展を成すには、有形無形の多様な資源を活用し、地域にキャッシュフローをもたらす地域経営の取り組みが必要とされている。今、行政の現場では、地域社会環境を的確に分析し、政策を考えることのできる人材を求めている。これらの課題に応えるために以下に掲げる構成で授業を実施する。</p> <p>第1部:データの分析・活用方法を学修 第2部:統計地図の作成演習を実施</p>
中国語検定講座a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、資格取得のために必要な単語・聴力・文法をバランスよく取り上げる。具体的には、HSK(漢語水平考試)3・4級、中国語検定試験3・4級検定の過去問題および模擬問題を用い、主要な文法ごとに分類し、実践的な練習・解説を行う。また、模擬テストを実施することで実践的な資格受験の準備を行う。過去問題および模擬問題の解答だけではなく、質疑応答の時間を毎回の授業に設けることで、受講生のレベルを把握しながらに基礎文法力と語彙力を修得する。</p>
中国語検定講座b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、HSK(漢語水平考試)4・5級、中国語検定3級の試験内容に沿って授業を展開する。具体的には、1500語～2500語前後の単語および生活・学修・仕事などの場面で基本的な文型を修得することで検定試験の合格を目指す。また模擬テストを実施し、実践的な資格受験の準備を行う。過去問題、模擬問題の解答だけではなく、質疑応答の時間を毎回の授業に設けることで、受講生のレベルを把握しながらに基礎文法力と語彙力を修得する。</p>
中国語コミュニケーション1	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、授業や日常の挨拶・会話で使う簡単な文章の会話学修から入ることで、外国語学修に対する抵抗感を軽減する。発音練習の際には、単なるピンイン練習だけにとどまらず、基礎の中国語会話に必要な単語、学生が興味を持てる単語や、必要最低限の数詞・量詞を意識的に用いることで、文法学修に先立ち、耳と口を中国語に慣れさせ、中国語作文・読解に必要な重要表現を修得させる。必要に応じて、簡単な疑問構文を用いて、会話形式で発音の練習を行うこともある。また、日本の漢字と異なる簡体字に対する拒否感を持たせないためにも、簡体字の成立過程の説明を行い、常用の漢字の日中での書き方の違いを明示して体系的かつ効率的な簡体字修得を目指す。あわせて、中国の社会や文化についても情報収集を行い、異文化理解を深める。</p>
中国語コミュニケーション2	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、中国語コミュニケーション1に引き続き授業や日常の挨拶・会話で使う簡単な文章の会話学修から入ることで、外国語学修に対する抵抗感を軽減する。また、中国語1で学修した内容を踏まえ、語彙を増やし、より複雑な言語表現能力の獲得を目指す。本科目での到達目標は、商品の説明、ガイドブックの観光案内、注意書き等における読解力、日本のことを伝えられるような会話力、簡単なメールのやり取りができる文書作成能力を身につける。あわせて、中国の社会や文化についても情報収集を行い、異文化理解を深める。</p>

授業科目の名称	講義等の内容
中国語コミュニケーション3	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、初中級レベルの単語と文型(慣用形)を修得することを目標とする。ペアワーク・グループワークを通して、様々な表現を身につけることで実践的な語学運用能力を養う。具体的には、簡単な観光案内・簡単な打ち合わせの通訳ができ、日常生活でよく使われる商品の紹介などができる力を身につける。あわせて、中国語検定4級・HSK(漢語水平考試)3・4級レベルに相当する中国語力を獲得することを目指す。</p>
中国語コミュニケーション4	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、中・上級レベルの中国語を学修する授業である。中級レベルの中国語の学修を終えた学生は、この授業で中・上級レベルの単語と文型を学ぶ。ペアワーク・グループワークを通して、様々な表現を身につけることで会話を中心とした実践的な語学運用能力を養う。具体的には、観光案内、ビジネスシーンにおける打ち合わせの通訳などができる力を修得する。あわせて、中国語検定3級・HSK(漢語水平考試)4・5級相当の語学力を獲得することを目指す。</p>
中国語で日本案内	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、基本的な観光用語を学修した上で、観光地の紹介ができる能力を養成する。発音の正確さは観光案内の基本であることをふまえ、授業では発音練習を実施する。併せて、観光実務での聴解力の重要性に鑑み、観光関係のヒアリング資料を活用し、聴解力を伸長させる。交通機関の乗換や、免税店の利用方法などを紹介する場合、説明文が欠かせないことも含め、構文や選択すべき表現方法について実践を意識してロールプレイングを行いながら修得する。</p>
通訳入門	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、英語と日本語の論理構成の違いを意識しながら、日英に通訳する通訳スキルトレーニング(シャドーイング・サイトトランスレーション)を行う。トレーニングを繰り返すことで、英語と日本語を聴き取り、理解し、自分の言葉で発話し、発話内容を確認する力を磨く。通訳に必要なスキルを学ぶほか、英語で日本の案内をしたり、病院、役所といった施設で国際共通語としての英語によって日常生活をサポートするなど、様々なシーンにおいて活用できる通訳の基本について学ぶ。</p>
Debate and Discussion	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、現代社会の様々な領域における日常的な話題(携帯電話、フリーター、結婚、飲酒喫煙、英語学修など)について、現象、背景、その問題・課題におけるメリットとデメリットを把握し、自分の意見を英語で明確に主張できるようになることを目的とする。</p> <p>以下の3点の内容において知識とスキルの修得を目指す。</p> <p>①英語を運用する上での表現を数多く修得する。</p> <p>②論理的思考力、批判的思考力を向上する。</p> <p>③統合的で、インタラクティブな英語活動を通じ、英語コミュニケーション力を向上させる。</p>
哲学概論a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、西欧の哲学の起源としてのギリシアからローマ帝国時代までの歴史を概観することで、ギリシア的人間観や幸福観、キリスト教的人間観や世界観などの特色について講義する。講義内容を通して、受講生は哲学的な物の見方と、生きていく上での指標を修得する。その学びにあたり、授業では「①哲学者たちは何を考えたか。②哲学者たちは何を批判したか。③哲学者はそれらを通して何を目指したか」を主要テーマとして、哲学の多様な世界の一端を学ぶ。本科目においては、ソクラテス・プラトン・アリストテレス・アウグスティヌス5名の哲学者を取り上げ、上記の①から③について理解を深める。</p>
哲学概論b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、西欧の中世を経て現代に至る歴史を概観しつつ、キリスト教的人間観や世界観を背景とした、ルネサンス期から現代に至るまでの人間観などの特色について講義する。「哲学概論a」の学修内容をふまえ、受講生は哲学的な物の見方と、生きていく上での指標を修得する。その学びにあたり、授業では「①哲学者たちは何を考えたか。②哲学者たちは何を批判したか。③哲学者はそれらを通して何を目指したか」を主要テーマとして、哲学の多様な世界の一端を学ぶ。本科目においては、スピノザ・フィヒテ・ヘーゲル・ショーペンハウワー・サルトル・マルセル6名の哲学者を取り上げ、上記の①から③について理解を深める。</p>
東洋史概論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、旧石器時代から現代に至る中国全史を概説し、各時代における日本を含めた近隣諸国の歴史も解説する。これによって受講生が中国の歴史を軸にして東アジア社会の外交史や文化交流史を整理できるようになることを目標とする。中国の地理や行政区についての基礎的な知識を学ばせたのち、歴史資料と考古資料を併用しながら歴代王朝の盛衰史を時系列で解説する。また、世界でも有数の世界遺産保有国となった中国の文化財保護政策についても言及する。受講生は中国の地理や行政区についての知識、原始社会から近代社会にいたるまでの通史や文化財の現状を学び、中国の歴史・文化を広く理解することができる。</p>
Topic Studies	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、世界の様々な課題、問題についてのトピックに関する基本的な情報や知識を英文での読み・聞きから、理解できるようにすることを目的とする。</p> <p>特に、持続可能な開発目標について詳しく学び、その達成のための方法を議論する。この他、複雑な課題、問題について理解できるだけの語彙力、聴解力、読解力を身につけ、様々なトピックについて、自分の意見を英語で発信する力(ライティング力、プレゼンテーション力)を向上させる。</p>
トラベル韓国語	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「韓国語1」を学修済で、韓国語の文字の仕組みを理解し、読み書ができ、基礎的な文型が理解できる学生を受講生として、初歩的な旅行会話をおこなう。空港、ホテル、飲食店、ショップ、公演場、観光地などで多用する表現方法を身につけ、状況に応じた対応ができる実践力を養う。具体的には、毎回異なる場所とシチュエーションを設定し、依頼に応る、問い合わせる、提案する、許可を求める等の表現を学ぶとともに、値段や時間の表現方法なども学修する。また、ペアワークとグループワークでの会話練習を通じて、旅行先で出会う韓国人とスムーズにコミュニケーションができることを目指す。</p>
ドラマで学ぶ英語	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、英語圏の映像化作品を教材として、主に次の2点の能力を伸長させることを目標とする。第一に、ナチュラルスピードで発話される英語のリスニング力を高める。速いスピードや発音の省略などにより、日常の英語会話の理解はしばしば困難となる。授業では、日本語を第一言語とする学修者がつまづきやすい連続音や同化について解説し、実際にディクテーションのタスクに取り組むことで、聴解力を高める。第二に、これまでの学修者用テキストにはあまり見られない、口語特有の英語表現、時には俗語等もとりあげ、理解を深める。作品によってはポリティカル・コレクトネスに配慮した表現も見られ、これらの学修を通して、日常英会話の語彙を増やすと同時に、英語圏における社会・メディアと言語の関係についても学ぶ。</p>

授業科目の名称	講義等の内容
日本経済論1	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、戦後の日本経済の推移をマクロ経済学の理論に基づきながら解説する。まず、財市場、貨幣市場、労働市場の役割についてのマクロ経済理論を紹介する。つづいて具体的、高度経済成長期を経て1970年代から1990年代にかけて、日本経済がどのように変化してきたのかを年代ごとに整理する。そのうえで、各期においてとりわけ重要な問題を解説する。高度成長と1970年代以降の各期において何が起こったのか歴史と経済理論の両面から把握することをテーマとし、今日に至るまでの日本経済の変化を総体的に学ぶ。その際、マクロ経済学の理論にできるだけ即した説明を行う。以上を通じて高度経済成長期から1990年代にかけての日本経済の変化を通時的に理解することが到達目標である。</p>
日本経済論2	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、とくに1970年代以降の日本経済をテーマごとに解説していく。具体的には、まず、マクロ経済学の基本理論と高度経済成長期から今日に至るまでの日本経済について再説する。次いで、授業計画に掲げたテーマに即してこの間に日本経済がどのような変化を遂げてきたのかをみていく。授業計画の後半は、日本経済をとりまく最新のトピックスも交えることも考えている。各年代における重要な経済的出来事について解説をしながら、企業経営、産業構造、雇用、物価、財政、為替相場、人口問題、アベノミクスといったテーマについても触れる、戦後の日本経済の歴史と現状を理解し、自分で今の日本経済をどうみるか考える能力を得ることができるようになる。</p>
日本語演習a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、日本語能力試験N1を取得している学生が、日本語を用いたプロジェクトワークを行うための準備をする。前期はプロジェクトワークをするために必要となる、資料の読解やインタビュー、アンケート調査、分析、まとめ、発表、ディスカッションなどの練習を行う。また、後期に行うプロジェクトワークのテーマや視点などの例を示していく。様々な活動を日本語で行うことを通して、日本語の運用能力を総合的に向上させることを目指す。</p>
日本語演習b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「日本語演習a」を学んだ学生が、日本語を用いてプロジェクトワークを行う。後期はテーマを決めて、文献調査や実地調査を行い、何らかの形にまとめて発表をする。どのようなテーマでどのような成果物にするかという点から、その年の履修者と話し合った上で決定するが、できる限り実際の課題解決につながるようなテーマを設定する。様々な活動を日本語で行うことを通して、日本語の運用能力を総合的に向上させつつ、日本語で目標を遂行することを目指す。</p>
日本語聴解発話1a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目は、日本語能力試験N2レベルの学生が聴解力、発話力、語彙力、文法力を中級後半から上級にかけて向上させることを目的とする。在日期间が1年以上経過している学生であっても、聴解能力の伸びない学生が目立つ。その原因は「耳慣れ」の不足にあると考えるため、発音も含め日本語の音体系を身体の中に作ることから始める。また、聴き取れないのは、語彙力不足も大きな要因となっているため、習得語彙数の増加にも努める。</p>
日本語聴解発話1b	<p>本科目は講義科目である。</p> <p>本科目は、「日本語聴解発話1a」を学んだ学生が、聴解力、発話力、語彙力、文法力を中級後半から上級にかけて向上させることを目的とする。聴解力が不足している受講生が多い場合は、前期に引き続き、発音練習を続け、日本語の音体系を体の中に作っていく。また、まとまった内容のものを聞いて理解した上で、自分の意見を表明する発話能力も伸ばすことを目指す。さらに、修得語彙数の増加も継続して努める。</p>
日本語聴解発話2a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「日本語聴解発話1ab」を修得済み、またはそれと同等のレベルがあるとみなせる学生が、N1取得を一つの目標と定め、聴解力、文法力、語彙力、発話力を養うことを目的とする。N1レベルの聴解問題を「正確に」聴き取り、質問に対して根拠や状況を説明した上で、解答を導く、という練習を行う。内容がおおよそ聴き取ればよしとするものではないので、文法力や語彙力が問われる。語彙力をつけるために、漢字や語彙の小テスト、カタカナのディクテーションなどを毎回実施する。授業外でも「注意深く聴く」時間を設けて、自身で聴解力を伸ばす自学自修が必要となる。</p>
日本語聴解発話2b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>「日本語聴解発話2a」を学んだ学生が、N1レベルの聴解力、文法力、語彙力、発話力を養うことを目的とする。N1レベルの聴解問題を用いて、話の構成を正確に聴き取り、それを説明する力をつけていく。漢字や語彙の小テスト、カタカナのディクテーションは前期に引き続き実施する。受検前の模擬試験では、答えを導き出した過程を重視する。授業外でも「注意深く聴く」時間を設けて、自身で聴解力を伸ばす自学自修が必要となる。発話においては、丁寧な言葉で話す習慣を身に付けることを目指す。</p>
日本語読解1a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目は、日本語能力試験N2レベルの学生が読解力、語彙力、文法力を向上させることを目的とする。授業で扱う語彙や文法は、N2レベルから始める。読解もまずはN2レベルの文章を用いて、文の構造、段落内の構造、文章全体の構成等を理解する練習を積み、確実に読解力を身につけることを目指す。また、1つのものを読み終えたときに、意見交換を行うので、意見交換の方法を身につけ、他人の意見を聞いて自分の考えの幅を広げることも目指す。</p>
日本語読解1b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目は、「日本語読解1a」を学んだ学生が引き続き読解力・語彙力、文法力を向上させることを目的とする。そのための構造理解も続ける。扱う文章はN2レベルから少しずつN1レベルへと引き上げていく。また、精読とは別に、文章全体からどのような情報やメッセージを得たか等の概略をつかむ読みや、レベルに合わせた楽しみのための読みなども適宜行う。語彙や文法はN2の力を確実に付け、N1レベルのものも取り入れていくようにする。</p>
日本語読解2a	<p>本科目は講義科目である。</p> <p>「日本語読解1ab」を修得済み、またはそれと同等のレベルがあるとみなせる学生が、N1取得を一つの目標と定め、読解力と語彙力、文法力を身につけるための科目である。ある程度の長さのある、論理的な文章を全体の構成を理解しながら的確に読みとる力を培う。また、短い文章を読んで討論をしたり、グラフ等を読み取ったりする練習も適宜行っていく。さらに、N1レベルの語彙の拡充、文法力の修得も目指す。</p>
日本語読解2b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>「日本語読解2a」を学んだ学生が、N1レベルの読解力、文法力、語彙力を養うことを目的とする。N1レベルの文章を用いて、文章全体の構成等を理解し、確実に読解力を身につけることを目指す。語彙力、文法力もさらに増強していく。N1受検前は模擬試験も実施する。また、N1受検後は、情報を得るための読解だけでなく、楽しむための読解など、可能な限り実社会の題材を使うことにより、読解の幅を広げ、日本語による読解の習慣を付けていく。</p>

授業科目の名称	講義等の内容
日本語レポート1a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>日本語能力試験N2レベルの学生が、レポート作成の基礎を学ぶための科目である。日本語でレポートを書くために必要となる、基礎的な知識(規則)を学び、正しい文法と語彙選択に基づきながら、読み手に伝わる、きちんとした文が書けるようにすることが目標である。文を正確に書くためには、文法力や語彙力が欠かせないため、文法や語彙を覚え、自分で文を書くときに覚えたものを使えるようにしていく。まずは、単文レベルで練習する。</p>
日本語レポート1b	<p>本科目は講義科目である。</p> <p>「日本語レポート1a」を学んだ学生が、引き続きレポート作成の基礎を学ぶための科目である。日本語でレポートを書くために必要となる、基礎的な知識(規則)を学び、正しい文法と語彙選択に基づきながら、読み手に伝わる、きちんとした文が書けるようにすることが目標である。文を正確に書くためには、文法力や語彙力が欠かせないため、文法や語彙を覚え、自分で文を書くときに覚えたものを使えるようにしていく。単文レベルから複数の文へと少しずつ書く量を増やすことを目指す。</p>
日本語レポート2a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「日本語レポート1ab」を取得済み、またはそれと同等のレベルがあるとみなせる学生が、日本語の文章を書く場合の基礎的な知識(規則)を学んだ(「1ab」を修得した学生は復習した)上で、その規則に則って文章、段落へと範囲を広げていくことを目指す。読み手に伝わる文章を書くためには、表現力が必要となるが、それは文法力や語彙の選択能力、文章の構成力からなるものである。これらの表現力をつけていくことを目指す。</p>
日本語レポート2b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「日本語レポート2a」を学んだ学生が、読み手に伝わる文章を書けるようにすることを目指す。そのためには、文法力や語彙の選択能力、文章の構成力を身につけ、最終的には、一つのテーマについて、複数の段落からなるまとまりのある文章を書けるようにする。また、引用の方法やグラフの書き方、参考文献なども書けるようにする。さらに、わかりやすい文章かどうか、正しく書けているかどうかについて、自分自身でもある程度チェックする力も養いたい。</p>
日本語レポート3a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「日本語レポート2ab」を修得済み、またはそれと同等のレベルがあるとみなせる学生が、大学の講義で求められるレポートを書けるようにする。まずは、これまでに学んだレポートの書き方を復習しつつ、全員が一つのテーマで、大学で求められるレベルのレポートの書き方を学ぶ。同じテーマで書いていくので、他の学生の書いたレポートからも相互に学びあいながら、よりよいレポートを書き上げていく。</p>
日本語レポート3b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「日本語レポート3a」を学んだ学生が、大学の講義で求められるレポートを書けるようにする。後期は、前期の経験をもとに、自分でテーマを決めて自分の力でレポートを書けるようにする。教師は指南役に徹するため、後期は自主的な取り組みが不可欠となり、かなりの時間の自習が必要となる。1年の学びを通して自力でレポートを書ける程度の力をつけ、「卒業論文」「卒業研究」の基本的な骨組みが理解できるようになることを目指す。</p>
日本史概論1	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、日本史は中国の歴史書に記された列伝、『古事記』『日本書紀』を初めとし、近現代の官報や新聞に至るまでの文字資料を読み、理解し、出来事を時系列で整理する作業によって構築されてきた。その学問的な手続きを学ばせることを目標とする。</p> <p>古代史・中世史・近世史・近現代史を構成する史料についての概説を行ったのち、漢文で記された史料を読み、理解し、出来事を整理する作業を通じて、歴史学の基礎的な修練を行う。受講生は原始・古代・中世・近世・近現代の日本全史を再確認でき、史料の講読技術を身に付けることができるようになる。</p>
日本史概論2a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、飛鳥時代から室町時代の政治・外交・文化史をテーマとし、多様な文献史料・文字資料を講読・積読する。各時代を代表する史料の中から、歴史上、重要なできごとに関する記事を選び、それに関わる基礎知識を講義したのち、個別史料の講読・積読を進める。それによって、歴史教科書などに反映された学説の構築過程を体験的に学ばせ、史料の読解力を修得させることを目標とする。受講生は文献史料および古代の出土文字資料・金石文など、多様な歴史資料の講読・積読を通じて、飛鳥時代から室町時代における日本の歴史を多角的・通史的に概観できる歴史学への視野を修得する。</p>
日本史概論2b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「日本史概論2a」の学修内容をふまえ、江戸時代から近現代における政治・外交・文化史をテーマとし、多様な文献史料・文字資料を講読・積読する。各時代を代表する史料の中から、歴史上、重要なできごとに関する記事を選び、それに関わる基礎知識を講義したのち、個別史料の講読・積読を進める。それによって、歴史教科書などに反映された学説の構築過程を体験的に学ばせ、史料の読解力を修得させることを目標とする。受講生は多様な歴史資料の講読・積読を通じて、江戸時代から近現代における日本の歴史を多角的・通史的に概観できる歴史学への視野を修得する。</p>
日本地誌学a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、地理学的視点を有しつつ、1920年代から1970年代を重点ある特定の都市・地域がどんな背景によって成り立っているのかについて、総合的に講義する。特に、今日の状況に至るまでの日本の都市の系譜を紐解き、理解することを目的としている。その際に、「地誌学とは何か」、「地理学と地誌学」を理解した上で、以下の観点から講義する。</p> <p>第1部:近代都市の形成過程 第2部:高度経済成長と都市 第3部:都市と社会</p> <p>受講生が具体的なイメージを持てるように、身近な大阪の事例や、映像資料・写真・地図等を多く利用しながら日本の都市が、どのような系譜をたどって今日の状況に至っているのかを考察する。</p>
日本地誌学b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、今日の都市を形成する社会・経済・文化・政治的背景、現代都市の争点について考えながら、身近な大阪を始めとする日本の都市の状況を講義する。地理学の視点から都市景観を眺めなおしてみると、現代や過去のさまざまな社会・経済・政治・文化的な仕組みが見えてくる。地誌学の課題は、そうした地理学的視点を有しつつ、ある特定の都市・地域がどんな背景によって成り立っているのか、総合的に理解することである。都市の争点について考えながら、身近な大阪を始めとする日本の都市の状況を紐解いていく。受講生が具体的なイメージを持てるように、写真、地図等を多く利用し授業を進める。</p>

授業科目の名称	講義等の内容
日本文化史a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「日本文化の基礎～古代から近世まで」をテーマとして、日本文化の多様な側面をビデオなどの視覚資料をふまえて講義する。この時代は日本文化の源流と基層、すなわち日本文化の土台が形成された時期である。授業は編年方式(時代順に時間軸を追うやり方)と文化項目(ジャンル)ごとに取り上げるやり方を組み合わせて進める。また、日本文化の特徴を、より明確に理解するために、他地域、他民族の文化との比較を適宜おこなう。つまり、比較文化の視点もとりいれながら、日本文化の歴史と特徴を解説する。</p>
日本文化史b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「日本文化の近代化」をテーマとして、明治以後の日本文化の様々な側面を、ビデオなどの視覚資料をふまえて講義する。この時代は西洋文化を吸収しつつ独自の新しい日本文化を創出した時期であり、他方、敗戦によるどん底状況から経済の復興・成長・繁栄をバックに多様な文化を展開させた時代でもある。こうした点から、日本文化の近代化に焦点をあて、さらに昭和がどのような時代であったのかということ詳しく学ぶ。また、広い視野から日本文化の特徴を理解するために、他地域、他民族の文化との比較を適宜おこなう。つまり、比較文化の視点もとりいれながら、日本近現代文化の特徴を詳述する。</p>
ネットビジネス中国語	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、簡単な中国語のビジネスメール・ファックスを読むこと及び日本語に訳すことを行う。具体的には、インターネット等を用い、中国各種企業のホームページを閲覧し、各地政府が開設する外資系企業向けのホームページの掲載内容から検索し読む能力を養成する。中国におけるのショッピングサイトなどを閲覧でき、販売実績の調査、商品の紹介、配送方法の確認などができるように演習を行う。中国大陸だけではなく、台湾などの華語圏の商業用語とそれと中国大陸との異同についても見識を広める。</p>
博物館概論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、これからの博物館・専門職員としての学芸員の在り方を考えるという観点から、博物館を取り巻く現在の社会状況もふまえて講義を行う。博物館に関する基礎的な知識を修得するとともに、現代社会における博物館や博物館学芸員の在り方に関して理解を深めることを到達目標とする。「博物館とは何か」を基本テーマとして、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①博物館の歴史 ②博物館の機能や役割 ③学芸員の役割 ④現代社会における博物館 <p>などを中心課題として、具体的な事例をあげながらミュージアムへの理解を深める。</p>
比較文化論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、モンスーンアジア(夏に梅雨が降るヒマラヤの東部から東南アジアや東アジアを経て日本に至る地域)の衣食住を比較しながら、似たような風土のもとで、日本人とは微妙に違う文化を作った人たちの文化や歴史について講義する。具体的には、発酵食品、織物、茅葺き屋根などについて紹介し、伝統文化がいかに現代にまで残っているのか、その歴史的变化を検討する。この授業では、風土の恵みを生かした先人の技術を理解し、観光地の文化を調べる手法を学ぶ。また、文化は不変ではなく、そのなかみは時代とともに変化してゆくことを理解する。さらに、隣人の文化を知ることで、日本の文化について理解を深める。</p>
Business English	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、ビジネスの世界で成功するために必要な必須の言語スキルを学ぶ。将来、遭遇するあらゆるビジネスシーンにおいてで使用される語彙、文法、および表現を学修することにより、以下の6つの能力を修得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①オフィスでのメモ、指示、お知らせ、苦情の手紙、電子メールの送受信できる。 ②英語を用いたで自己紹介やコミュニケーションをとることができる。 ③国際的な職場環境で求められるエチケットや礼儀作法に従うことができる。 ④海外出張で英語を使うことができる。 ⑤グループでのディスカッションや交渉の際に英語を用いることができる。 ⑥ビジネスシーンにおける面接場面等で英語を用いることができる。
ビジネス日本語1a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、日本語能力試験N1を取得した学生が、敬語の仕組みや使い方、敬語表現などを身につける。将来日本語を使って仕事をする留学生にとって敬語学習は必須である。敬語の基本を学習することからはじめ、敬語を通して日本人の考え方などを理解しながら、ビジネス場面に応じた練習を行う。敬語は間違えて使うくらいなら使わないほうが良いと言われるほど、正しさが求められるものである。敬語の形を覚えるのに自学自修が必要となる。</p>
ビジネス日本語1b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「ビジネス日本語1a」を学んだ学生が、ビジネス場面に応じた敬語の練習を行う。また、ビジネスマナーについても、日本人の考え方などを理解しながら学ぶ。さらに、新聞記事を通して日本人や日本社会を理解し、自分の意見をまとめて記事とともに紹介し、ディスカッションする。応用力をつけるためには、敬語の基礎が身につけていて、状況を判断して言葉を選び使うことができればならない。授業の練習だけでは足りないため、日常生活のさまざまな場においても学ぶ姿勢を養う。</p>
ビジネス日本語2a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では「ビジネス日本語1ab」を修得した、またはそれと同等のレベルを有する学生が、ビジネス場面におけるコミュニケーション能力の向上を目指す。ビジネス場面のコミュニケーションは、いかに速く人間関係を理解し、自分の立場に見合った適切な敬語を使えるかにかかっている。前期は、敬語の復習のほかに場面練習も取り入れながら、理解力・運用能力を高めていく。また、ビジネス場面に不可欠な常識的な用語も学ぶ。</p>
ビジネス日本語2b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目は、「ビジネス日本語2a」を学んだ学生が、前期に引き続き、ビジネス場面におけるコミュニケーション能力の向上を目指す。後期は、就職に役立つ検定試験BJT(ビジネス日本語能力テスト)のJ1以上の取得を目指した勉強を通して、ビジネスコミュニケーション能力を高めていく。人間関係の理解・適切な敬語の運用につなげるため、なぜその解答を導いたのかを客観的に説明する能力も養う。また、ビジネス場面に不可欠な常識的な語彙も拡充していく。</p>
ビジネス日本語基礎a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、日本語能力試験N1を取得していない学生が、卒業前に敬語全般について理解し、簡単な敬語が使えるようにすることを目指す。日本でも海外でも日本語を使って仕事をしていく上で、敬語は外せない。しかし、敬語を体系的に学んでいる学生はほとんどいないため、本科目ではまずは敬語の基本を学び、敬語の語形や表現を理解し、聞いてわかるようにする。また、簡単な敬語を使って会話できるようにする。</p>

授業科目の名称	講義等の内容
ビジネス日本語基礎b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目は、「ビジネス日本語基礎a」を学んだ学生が、簡単な敬語の会話や簡単なビジネスマナーを身につけることを目指す。就職して日本語を使って仕事をする際に、限られた場面ではあっても、どのような場面で敬語を使用するか理解し、適切に使用できるようにする。また、日本社会への理解を深めるために、新聞記事等から日本人や日本社会を読み解き、自分の意見をまとめて、発表することも適宜実施していく。</p>
Presenting in English 1	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、プレゼンテーションを論理的で理解しやすくするための準備の方法を講義する。また、プレゼンテーションを理解しやすくするための適切なフレーズや表現について学修する。さらに、プレゼンテーションの3つの要素、visual, vocal, & verbalスキルに焦点を当てたフレームワークを通して、プレゼンテーションの作り方を学ぶ。宿題としてプレゼンテーションの原稿作成やビジュアルエイドの作成などを行い、プレゼンテーション後の分析を実施する。</p>
Presenting in English 2	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、高度な英語でのプレゼンテーションを論理的で理解しやすくするための準備の方法について講義する。また、プレゼンテーションを理解しやすくするための適切なフレーズや表現についても学修する。プレゼンテーションのトピックを調べることで、英語のボキャブラリーを増やし、英語の読解力を身につけます。宿題としてプレゼンテーションの原稿作成やビジュアルエイドの作成などを行い、プレゼンテーション後の分析を実施する。</p>
プロジェクト型国際実習a	<p>本科目は、実習科目である。</p> <p>まず資料・文献調査およびフィールドワークの手法を修得する。その上で、資料・文献調査を通して、海外の調査対象地域の現状や課題を把握するとともに、国際学の視点から問題解決の可能性を検討した上で、現地実習で調査すべき事項をまとめた実習計画書を作成する。そして、現地で視察や聞き取り調査などの実習を行う。その後、調査結果を取りまとめ、国際学の視点から問題解決に向けた提案をまとめていく。これらを通して、地域社会や企業の問題解決の方策を立案する。</p>
プロジェクト型国際実習b	<p>本科目は、実習科目である。</p> <p>プロジェクト型国際実習aで実施した資料・文献調査、海外の調査対象地域の現状や課題の把握、国際学の視点から見た問題解決の可能性の検討、そして現地での視察や聞き取り調査などの実習に引き続き、現地調査の結果を取りまとめ、国際学の視点から問題解決に向けた提案をまとめる。さらに、学外での学会大会などで成果発表を行うことを通して、地域社会や企業の問題解決に向けたプレゼンテーション力を修得する。</p>
プロジェクト型国内実習a	<p>本科目は、実習科目である。</p> <p>まず資料・文献調査およびフィールドワークの手法を修得する。その上で、資料・文献調査を通して、国内の調査対象地域の現状や課題を把握するとともに、国際学の視点から問題解決の可能性を検討した上で、現地実習で調査すべき事項をまとめた実習計画書を作成する。そして、現地で視察や聞き取り調査などの実習を行う。その後、調査結果を取りまとめ、国際学の視点から問題解決に向けた提案をまとめていく。これらを通して、地域社会や企業の問題解決の方策を立案する。</p>
プロジェクト型国内実習b	<p>本科目は、実習科目である。</p> <p>プロジェクト型国内実習aで実施した資料・文献調査、国内の調査対象地域の現状や課題の把握、国際学の視点から見た問題解決の可能性の検討、そして現地での視察や聞き取り調査などの実習に引き続き、現地調査の結果を取りまとめ、国際学の視点から問題解決に向けた提案をまとめる。さらに、学外での学会大会などで成果発表を行うことを通して、地域社会や企業の問題解決に向けたプレゼンテーション力を修得する。</p>
文化交流史1	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、古代以来、日本は、中国・朝鮮半島諸国をはじめとした東アジア諸国との交流を通じて、その文化を受容し、独自の日本文化を形成してきた過程について講義する。具体的には、3世紀の卑弥呼の時代から江戸時代の朝鮮通信使との交流に至る日本古代～近世の外交史を通史的に概観する。また、特論として、東アジア世界におけるアイヌ文化・琉球文化、およびオセアニアの諸文化を取り上げ、多彩な文化交流の諸相を修得する。</p>
文化交流史2	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、ロシア、中央アジア、モンゴルに跨がるユーラシア地域における文化の発展・交流の様相、および諸地域の文化が「国家」の統治構造や人々の思考様式に与えた影響について講義する。その目的は、我々がしばしば普遍的なものと思いがちな欧米的価値観を相対化し、さまざまな文化・習俗を尊重する視点を修得するところにある。こうした点に鑑み、本講義では、特にユーラシア地域を大々的に支配したモンゴル帝国およびロシア帝国・ソ連・現代ロシアにおける宗教文化の趨勢、ならびに文化や政体を発展させるために必要であった「水力」をめぐる地政学的な議論に着目する。</p>
文化交流史3	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、古代のギリシア・ローマから中世を経て、ルネサンス・バロック・ロココの時代、そして産業革命とフランス革命を経た後の19世紀近代市民文化、さらに20世紀以降の現代の国際文化へといたる、ヨーロッパ文化の歴史の変遷を、アフリカ、アジア、アメリカとの交流、とりわけ大航海時代以降の日本との交流も視野に入れて講義する。ヨーロッパの近代的価値観が揺らいでいる現在だからこそ、あらためてヨーロッパ文化の歴史を振り返ることで、人類史におけるヨーロッパ文化の歴史的意義を考察し、人類の来し方・行く末を考察する。本科目は、優劣を論じるのではなく、多文化が共生できる地球規模の思考を修得する。</p>
文化財論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「我々にとって文化財とは何か」を基本テーマとして、文化財の種類や特徴など、文化財に対する基礎的な知識を修得するとともに、その保護の仕組みや活用についての理解を深めることを到達目標とする講義を行う。講義では以下の5点について具体的な事例をあげながら授業を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①文化財の種類とその特徴 ②文化財保護の仕組み(文化財行政) ③教育資源としての文化財 ④地域づくりと文化財 ⑤観光資源としての文化財 <p>さらに「観光資源」として文化財の活用がなされている事例を積極的に取り上げるほか、当該授業では現代美術もその範疇で理解し、各地で見られるアートによる地域づくりや観光振興などについても学ぶ。</p>

授業科目の名称	講義等の内容
文化地理学a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、日本の地域と開発の地政学をふまえて、総合的に学修すると共に各地域の文化にはどのようなものが見られるのかについて理解を深める。具体的には、①都市圏と都市システム、②世界遺産、③地域とスポーツ、④近畿地方－鉄道会社と郊外社会－、⑤東海地方－新聞社と余暇活動－、⑥関東地方－多様化する社会・都市の目がイベント－、⑦東北地方－地方中枢都市－、⑧北海道地方－開拓の歴史－、⑨中国地方－地方の時代－、という9つの観点から考察を行い、日本の地理学的全体像について把握する。</p>
文化地理学b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、世界の地域について総合的に学修するとともに、「文化地理学a」の学修内容をふまえ、各地域の文化における表象及び事象について概観する。その際に、「地政学」的な視点を挿入することで、各地域に造形されてきた文化について分析を行う。具体的には、①世界とスポーツ、②アフリカにおける南北問題、③東南アジア・南アジアを通して見える躍進するアジア諸国、④西アジア・中央アジアにおけるイスラム世界、⑤北アメリカの人種のつぼ、⑥オセアニア・北極・南極という洋上の国々、の6点の観点から考察を行い、世界地図を地理学的に把握する。</p>
法学概論1	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「法」が目指すところについて講義する。法は正義を目指すものであると答えることができるかもしれないが、現実的には正義の尺度も様々であるし、法の制定、実現過程においては法以外の諸力と無関係ではありえない。そのような社会構造を探究することで法とは何かを追究する。併せて、受講生は、法に触れることでこれを身近に感じ、社会現象を法的に理解できること、または法的に理解しようとするときに、必要な法情報を獲得するスキルを修得する。</p>
法学概論2	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「法と正義」をテーマとして、「殺人と法」について考察する。なぜ人を殺してはいけないのか、という命題を探究するためには、「法」だけではなく、法制度を支える様々な正義の尺度を知るための講義を行う。講義では、「なぜ人を殺してはいけないのか」という命題を出発点として、違法性の推定を覆す例外的事情である違法性阻却事由(正当行為・正当防衛・緊急避難・安楽死)などにも触れながら、法構造の理解を中心としつつも広く社会構造を探究し、法とは何かを理解する。</p>
ポスト留学韓国語	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、韓国語圏での短期・長期の語学留学を経た受講生を対象として、留学先で修得した韓国語能力(話す・聴く・読む・書くの4技能)のさらなる向上を図るための講義を行う。併せて、TOPIK3級以上の能力を修得する。中級レベルの語彙や表現を多用したテキストを読みながら、各トピックの内容を理解し、韓国語で議論・作文・プレゼンテーションを行うことで、コミュニケーション力を向上させる。また、韓国の言葉だけでなく、韓国文化や社会について熟知することで日本文化との比較方法を学び、異文化理解力を修得する。</p>
ポスト留学中国語	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、中国語圏留学経験者がさらにその中国語力を高めることを目標とする。具体的には、以下の6点に重点を置く</p> <ul style="list-style-type: none"> ①語彙を生活用語から広げ、社会・経済・時事などの多分野の用語を身につける。 ②公式の場におけるスピーチ或いは通訳ができる。 ③簡単なプレゼンテーションができる。 ④複文・四字熟語等を駆使し、やや高度な中国語の文書を読み・書き・聴解ができる。 ⑤構文・読解・聴解力を修得する。 ⑥日常会話から初歩的ビジネスで活用可能な中国語力を修得する。
ホスピタリティ英語1	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、ホスピタリティ業(エアライン関連・旅行代理店・ホテル・旅館・インバウンド/観光促進団体等)に関与するために必要な英語コミュニケーション・スキル、知識を修得する。様々な場面をシミュレーションし、自信を持って活用できるように、接客・接遇に不可欠な丁寧な表現や敬語表現を実際に使いながら必要な能力を獲得する。併せて、ホスピタリティ業についての資料を通じて学修したトピックを、プロジェクトやプレゼンテーションのテーマとしてまとめ発表する。</p>
ホスピタリティ英語2	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、ホスピタリティ業(エアライン関連・旅行代理店・ホテル・旅館・インバウンド/観光促進団体等)に関与するために不可欠な英語コミュニケーション力を楽しみながら修得する。様々な場面をシミュレーションし、自信を持って活用できるように、接客・接遇に不可欠な丁寧な表現や敬語表現を実際に使いながら覚えていく。併せて、ホスピタリティ業についての資料を通じて、学修したトピックをプロジェクトやプレゼンテーションのテーマとしてまとめた上で発表する。また、海外からのインバウンド客および海外での接遇に欠かせない、日本の伝統、催事、現代の社会などを英語で発信できるスキルを修得する。</p>
ホスピタリティ産業論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、日本のホスピタリティ産業の現状や課題を確認した上で、ホスピタリティ産業の経営の特性を顧客満足と従業員満足に焦点をあてて考察し、経営上の課題を解決するための基礎知識を身につける。具体的には商品としてのホスピタリティの概念や顧客満足についての正確な理解を深め、とりわけ、観光企業では、どのようにホスピタリティを実践すればいいのか、そのために人材をどのように確保・育成すればいいのか、などについて検討する。また、優れた顧客満足活動を実践している観光企業についても考察し、ホスピタリティ経営についての学問的な理論が実践にどのように役に立つのかを学ぶ。</p>
翻訳入門	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、英語から日本語への翻訳の基礎を学ぶ。幅広いテーマの練習問題を通して実践することで、基本的な英語の知識、語彙力、表現力を向上させるだけでなく、日本語の語彙力や表現の力を修得する。翻訳に必要な英語を正確に読む力、コンテキストの理解、辞書の使い方、インターネットを使ったリサーチスキルに加え、ビジネス文書、メールやSNS、コミュニティでの案内文、文芸作品、歌詞など、幅広いジャンルを学ぶ。</p>

授業科目の名称	講義等の内容
マクロ経済学	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、理論モデルや経済統計データを用いて、経済活動水準、物価水準、失業率など一国の経済全体の状態を表す変数の動きの分析する。講義のテーマは、こうしたマクロ経済学の標準的な理論を理解し、関連する経済データの読み方を修得することである。授業前半で、財市場と貨幣市場を中心に一国経済全体の動きの仕組みと伝統的なマクロ経済モデルを学び、後半で開放経済モデルを重点的に学ぶ。授業の具体的な到達目標は次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① マクロ経済データを考察できるようになる ② IS/LMモデルとその意味を理解できるようになる ③ 為替レートの決め方を理解できるようになる ④ IS/LMモデルからマンデルフレミングモデルを導きその意味を理解できるようになる
ミクロ経済学	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、資源配分に関わるいろいろな問題を分析する。ミクロ経済学で用いられる代表的な分析手法の使い方を紹介していくことで、ミクロ経済学では問題をどのように捉え、解決しようとするかを修得してもらうことを意図している。実際のところ、ミクロ経済学は他のいろいろな分野で行われている分析の基本になっており、この授業の受講生が授業で学修した分析手法をそれぞれが関心を持つ問題に応用できるようになることが重要な到達点である。</p>
民間協力(NGO/NPO)論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、開発途上国と先進国で活躍する非政府組織(Non-Governmental Organization, NGO)と、非営利組織(Non-Profit Organization, NPO)について、その種類、目的、特徴、設立過程等をいくつかの団体を例にして講義する。またその団体が活動する国の政治、経済、社会状況も併せて講義する。受講生は、講義で取り上げる主なNGO団体(国境なき医師団、ペシャワール会、グリーンピース、グラミンバンク、アドボカシーNGO)への理解を深める。主な活動現場である、バングラデシュ、インドネシア、インド、アメリカ、フランス、日本、台湾、パキスタン、アフガニスタン、アフリカ諸国等の現状を学ぶことで、知識を修得する。</p>
メディア・イングリッシュ1	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、環境、科学、社会問題などの題材に関して読解し、自分の意見を発信する力を身につけることを目標としています。リーディング・リスニングを中心に、様々な興味深いトピックスを扱ったテキストを使用してトレーニングを積み重ねます。授業をとおして異文化に対する理解を深め、興味が持てるようになることを目指します。ビデオ教材を学修した上、理解力とライティングの課題を行うことで、リスニングとライティングのスキルを強化し、オンラインでのリーディングや語彙の課題に取り組む。</p>
メディア・イングリッシュ2	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「メディア・イングリッシュ1」で修得したスキルをさらに発展させることを目標とする。環境、科学、社会問題に関する記事を読んだ後、自分の意見を発表する。また、読解のためのストラテジーを学び、より深く理解できるようにする。授業をとおして異文化に対する理解を深め、興味が持てるようになることを目指す。ビデオ教材を学修した上、理解力とライティングの課題を行うことで、リスニングとライティングのスキルを強化し、オンラインでのリーディングや語彙の課題に取り組む。</p>
メディア・イングリッシュ3	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「メディア・イングリッシュ1・2」で学んだスキルを構築することを目標とする。受講生は、文章を詳細に読む前に、その文章の概要を全体的に理解するためのリーディングスキルを身につける。教科書の各章の語彙クイズを行い、授業で学んだトピックについて自分の意見を簡単な文章にまとめ、授業をとおして異文化に対する理解を深め、興味が持てるようになることを目指す。また、オンラインでのリーディングと語彙の課題に取り組む。</p>
メディア・イングリッシュ4	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「メディア・イングリッシュ1・2・3」で学んだスキルをさらに発展させることを目標とする。記事を短時間で読み、理解できるようなリーディングスキルに重点を置いて学修する。また、教科書の各章ごとに語彙の小テストを行う。さらに、教科書で学修した環境、科学、社会問題について、自分の意見を短いパラグラフにまとめて表現し、授業を通して異文化への理解と関心を深めることを目的とする。宿題として、オンラインで読書と語彙の課題に取り組む。</p>
ヨーロッパ芸術論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、人類の普遍的な文化遺産であるヨーロッパの美術・演劇・音楽について講義する。古典美術やキリスト教美術、ルネサンス美術から20世紀の現代美術、ギリシア悲劇やシェイクスピア悲劇、モーツァルトやヴェルディのオペラからチャイコフスキーのバレエ、あるいはロンドン・ミュージカルなどは世界の共通言語となっており、その基礎知識なくしては、世界の人のびととの円滑なコミュニケーションがとれないほどである。異文化理解のための基礎知識を修得する。</p>
ヨーロッパの地域と観光	<p>本科目は講義科目である。</p> <p>本科目では、以下の項目について講義する。英国で19世紀末以降「歴史」や「伝統」に関するものが観光資源として注目されてきた経過や、博物館や美術館だけでなく、文化遺産や田園風景、産業革命の工場跡なども観光の対象になっていることをふまえ、貴族に流行したグランド・ツアー、近代観光の先駆者トーマス・クック、現在の英国観光で重視されているカントリーサイドと文化遺産としてナショナル・トラストとコッツウォルズ地域を取り上げる。併せて、英国観光の歴史と現代の諸相を学ぶことで西欧文化に対する理解を深める。</p>
旅行ビジネス論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、多岐にわたる旅行ビジネスの事業領域について講義する。具体的には、旅行業ビジネスを中心に、旅に関わるビジネス(宿泊・交通・娯楽・土産物・金融)の他、福利厚生代行事業・地域交流事業等である。旅行ビジネスの中核を成す旅行業ビジネス、その仕組みやビジネスモデルの変容を時系列に分析し学ぶと共に、宿泊施設・交通機関他、旅行業ビジネスの素材を提供する事業者についても、その関わりのなかで理解を深める。旅行ビジネスの本質に迫り、旅行ビジネスに関する基本的な知識の修得を行う。</p>
倫理学概論a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、人間と社会における規範の探求をテーマとする。本講義を通して、各思想の歴史的背景をふまえて、現代的な問題における倫理的なアプローチ方法をも学ぶ。なお、本講義内容を学ぶことで、人類の文化、自然に関する知識を関連付けた考察力を修得する。具体的なテーマとしては、①「神と倫理」の観点から、ユダヤ教・キリスト教・中世キリスト教・その他の宗教について理解を深める。②「仏教と倫理」の観点から、奈良～平安時代・鎌倉～江戸時代の倫理観を学ぶ。</p>

授業科目の名称	講義等の内容
倫理学概論b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、人間と社会における規範の探求をテーマとする。「倫理学概論a」の学修内容をふまえ、本講義を通して、各思想の歴史的背景と共に、現代的な問題に対する倫理的なアプローチ方法を学ぶ。なお、本講義内容をふことで、多文化・異文化に関する知識及び、社会に関する知識を関連付けた考察力を修得する。具体的なテーマとしては、①「生命倫理」の観点から、生殖技術・出生前診断・脳死と臓器移植について医療技術と倫理観について理解を深める。②「環境倫理」の観点から、環境破壊・SDGs・環境正義について文明と倫理観を通して近未来へ向けた人間社会を考察する。</p>
レジャー文化論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、人がレジャー・遊びに惹かれるのは何故なのかといった疑問について多面的に講義する。労働のグローバル化があるとすれば、余暇のグローバル化もあり、この点で、観光もグローバル化の大きな部分を担っている。観光も含めた人々の余暇(レジャー)生活の現状を把握し、新たな自由時間活動の可能性を探ると同時に、レジャー・遊びの本質を理解することによって、人が人らしく生き、豊かさが実感できる社会を実現するためにレジャー・遊びを活用する方法への理解を深め、知識修得する。</p>